

過ぎたるはなお及ばざるが如し

専修大学教職課程協議会委員長 文学部 教授 伊部 哲

平 成12年度発行の第2号『パスン ア パスン』に、私は、利用し始めたばかりのインターネットで情報を見ていて、「日本の教育はほぼ英米とは反対方向に動いている」と書きました。過ぎたるはなお及ばざるが如し、という言葉が論語にあります。日本も英米も立ち止まって冷静にあり方を考える必要があるように思います。

英米では、日本とは逆に、登校日が増え、授業時間が増え、教える知識量が増え、宿題が増え、一斉学力試験が頻繁に行われ、進学競争が激化し、教員不足である、と書きました。このような状況は、反対の声も出ますが、変わっていません。深まったといってよいでしょう。そうなったのは、ばらばらな知識を多量に詰め込むよりも、個性や創造性を重視し、調べたり、考えたり、話し合いをすることを重視するような教育では、たくさんの知識や技能を必要とする21世紀には対応できない、という考えからです。

日本は、ばらばらな知識の詰め込みではいけないという反省の上に立って、生きる力、考える力、創造性、個性、ゆとり、などをねらっていて、「まず知識をつけた上で」という英米の方向とはまさに正反対です。進学競争も下火になり、生徒・学生の意欲の低下、学力低下が話題になります。そのため、新学習指導要領が来年平成14年度から小学校・中学校、平成15年度から高等学校で始まりますが、そ

の見直しがすでにささやかれています。

どちらが正しく、どちらが間違っている、という問題ではないと思います。どちらもそれなりに正しく、どちらもそれなりに間違っている、のでしょうか。一方、世界には教育が受けられないどころか、食べるものにも事欠くたくさんの人たちがいるし、9月11日に起こったニューヨークの世界貿易センターのテロ事件にかかわって書かれた記事によると、アフガニスタンの女性は正式に教育を受けることができない仕組みになっているようです。教師は、目の前の生徒だけでなく、広く世の中を見回している必要があります。

イギリスでは、小中等学校段階で何回も学力試験が全国一斉に行われ、成績結果で全国の学校がランク付けられます。義務教育の終わる16歳ではGCSEという試験を全生徒が一斉に受け、全国中等学校が成績順に並べられます。大学進学希望者はさらに2年間勉強したのち、全国一斉のA-level試験を受け、進学する大学が決まります。結果が発表される8月半ばの木曜は、マスコミが大きく扱い、大変な騒ぎになります。成績に不服があれば、意見申し立てができ、見直しが行われることもあります。ところが、今年の6月にはそのA-level試験を受ける1年前の生徒にAS-level試験を実施しました。生徒も先生もたまったものではありません。さすがに、AS-level試験は1回で中止になりそう

です。さらに、担当している生徒の成績がよければ先生にボーナスまで出すのには驚きます。

アメリカでは、州や郡などで制度が異なりますが、やはり州や郡などの単位で一斉試験が頻繁に行われ、2003年からは多くの州が高校卒業一斉試験を行う方向で動いています。本当の学力は学校単位あるいは教える先生単位で成績をつけるのではわからない、という考えからです。試験的に行った高校卒業試験の成績は総じて低く、卒業できない生徒がたくさん出そうで、試験のレベルを下げることを検討しています。teaching to the test（試験のため教育）になっているという批判が強まっていますが、方向が大きく変わることはないでしょう。

英米のこのような状況は、21世紀に生きてゆくには国民全員がかなりの量の基本的知識を共有する必要がある、という認識からきています。過ぎたるはなお及ばざるが如し。日本と英米、ともに互いから学ぶべきことがたくさんありそうです。

Passo a Passo

目 次

1	特別寄稿「教職課程とともに」.....	4
	——専修大学経済学部教授 梶山 喜代子	
2	地域電子図書館としての サンフランシスコ公共図書館	8
	——専修大学経営学部助教授 荻原 幸子	
3	教職課程	13
4	司書・司書教諭課程	27
5	学芸員課程	33
6	データ編	39

私が専修大学の教職課程にかかわるようになったのは、1954（昭和29）年のことです。半世紀にも及ぶ古い古い時代の頃からです。

「専修大学に勤務したお茶の水附属の先生が教職課程を手伝ってくれる卒業生を探している。勉強も続けてゆけるそうだから、どうですか。」と恩師（吉田昇先生）に声をかけられました。私はその頃母校の研究室に籍をおき、お茶の水女子大学と、当時はその近所にあった東京教育大学で心理学、教育学の勉強をしていました。とても良いお話だったので6月の暑い日に面接に神田校舎へ出かけました。当時の専修大学神田校舎は3階建てで現在地にありましたが、私は都電「専修大学前」で降りると、反対側に見えた教育会館の方へ行ってしまう、そのため遅刻してしまったという思い出があります。現在の15階の100年記念の校舎から思うと、ほんとうに小ぢんまりとした校舎でした。通りからは見えなかったのです。

堀七蔵先生と学務担当の理事の方の面接を受けましたが、即決で採用されました。給与は公立の先生並みということでしたが、1ヶ月後の給料日になるまで、私は正確な額を知りませんでした。まったくのききな話です。そこで仕事が始まりましたが、大学全体の人数が少ない時でしたから、新学期やテスト期間、そして教員免許状申請の時期以外は、あまり忙しい思いはしたことがなかったと思います。

商経学部と法学部と短期大学部の3学部しかない時で、夜間の二部のほうが活気があった時代でした。特に教職課程は多くの受講者がありました。それは、旧制の教員養成の学校（師範学校）の出身者や、旧制の中学校、高等女学校を出て講習をうけて先生になられた方々が大学での資格を得るために受講されていたからです。年輩の方も多く、履歴書を見ると「東京都。区立小学校勤務」「市立。

○中学校主任」などの経歴も珍しくありませんでした。こうした先生方が専修大学を卒業し、社会科、商業科の教員免許状を取得され、教育界で活躍されたのです。現在も続く「専修大学教育学会」は戦前から教育界で活躍する方々と共に、校長や教頭になられた新制度の教職課程の卒業生の方々が盛り立ててこられたものです。

関東地方を中心に、多数の会員が参加し、学会の総会は小学校・中学校・高等学校の各分科会や研究集会で、2日間にわたる時もありました。もちろん、専修大学のバックアップも大きかった大会でした。

教育学会の奨学金

教育学会の活動の中で記憶に残るものとして、後輩への奨学金がありました。両親のどちらかが教員であり、教員を目指す学生に奨学金を与えるというものです。高度成長期は一般の就職希望が多く、教師希望は第二志望の存在でした。教師だけでなく公務員も不人気の時代だったのです。信じられますか？

給与なども民間に比較すると低い方だったり、学校という社会が制約が多いように見えたりなど...。いろいろな理由が考えられますが、そんな時代でした。「デモ・シカ先生」という表現もありました。「先生にでもなろうか。先生にしかねなかった。」という内容です。ずいぶん失礼なことですがそうした時期だからこそ、優秀な後継者を育てたいという先輩たちの熱意だったのでしょう。この企画はしばらく続きましたが、基金のことなどで中止され、代りに教員になった学生にお祝い金が贈られました。現在は図書券だと聞いています。

現役の学生に、この話をすると皆びっくりします。教員も公務員も大変な倍率で難関となっているのですから。

現在の「デモ・シカ」は、若い社会人に対してのようです。「何

でもするけど、言われたことしかしない。」の意味だそうですが、若い人だけに限られたことではないような気がします。

いずれにしても、専修大学教育学会は教職課程にとっても、大学全体にとっても大切な組織であり、他大学にもあまり例のない素晴らしい会だと思っています。

社会人入試が一般的になり、社会人の方の目的を持った意欲的な学びの姿勢が、一般学生により影響をおよぼすということは知られています。専修大学の夜間の教職課程には、学びの意欲がみなぎっていました。先に述べた現職の教員の方々の他には、皇宮警察や自衛隊の方、また看護婦さんや保母さんも多く見られました。夜勤のある職種のため欠席も多かったのですが、今でも印象に残る学生も多かったと思います。

私は1965（昭和35）年に専任講師になり、「教育心理学・青年心理学」を担当することになったのですが、昼間の学生にはとまかく、現職の先生のいらっしゃる二部の講義は、大変緊張したものでした。それを克服するためには勉強することが急務であり、特に教育現場を体験することの必要性を感じました。先生方の紹介や友人たちの勤務先を訪問し、子ども達と遊んだり授業参観をしたりしました。

神田校舎に研究室があったので、駿河台下の区立小川小学校、小川幼稚園にはよく通いました。児童数も多く、顔なじみになると歓迎され楽しい時を過ごすことができました。やがて千代田区も居住人口が減り、その小川小学校、幼稚園は早くから統合により閉校になってしまいました。

いま、団塊の世代と言われている年代の人々の子ども時代は、クラス数も多く、もちろん学校も新設された時代でした。団地が造成されると小学校や中学校も併設されました。また地域に以前からあった小学校・中学校も在校生が増加し、プレハブの校舎でしのいだりしたものです。

1学年だけでも900名以上（19学級）も生徒がいて、遠足の日ともなると50数台もの観光バスが並び、どのバスに乗るのか汗をかきながら走りまわった……。それをまだ夢に見ると、ある作家が書かれています、この世代が高校入学期を迎えると、高校全入運動が起こり、高校が新設されたわけです。

この頃、教員の確保が難しく、特に教員養成課程が少ない小学校の先生不足に対応するため、中学校の教員免許状取得でも小学校に就任を打診されることもありました。そして、全教科を指導できる小学校教員の養成所が開設され、専修大学からも多くの学生がそこで学びました。

小学校教員養成所の想い出

小学校教員の養成所は、関東地方では埼玉県と千葉県に設置されました。定員は120名だったと思います。千葉県の養成所は「四街道」にありました。駅から少し離れた場所にあり、学生はその付近に下宿していました。カリキュラムは大変密で、理科のためには校庭で植物を栽培し、朝顔や向日葵をスケッチし、燃えるもの、燃えないものの実験を、現職や養成所の先生方から指導を受けました。専修大学の卒業生の場合、ほとんどが社会科の教員免許ですから、楽しんではいましたが大変なことだったでしょう。なかでも多くの学生が悩んだのは音楽で、ピアノやオルガンの実習だったようです。幼児向きのピアノ教室に通う学生もいて、「小さい時習ったのに、すぐやめてしまわなきゃ良かった。」などと愚痴ると、「私も」「僕も」と皆が言い出して大笑いしました。

私は中学校・高等学校の採用枠が少ないため教師になれないと思っていた学生に、積極的に養成所受験をすすめました。小学校というのは念頭になかったらしい人が多く、ためらいはありましたが、何年かのちには中学校へも移れるとの条件もあり、多くの方が受験

しました。養成所の学生数の中でトップは東洋大学で、2番目に多いのが専修大学でした。20名近く進学し、卒業後は千葉県内の小学校へ赴任しました。現在も千葉県内の各地で活躍しています。

私は養成所を熱心にすすめたこともあり、四街道の養成所へは何回も訪問しました。一番最初に行った時、在校生がとても喜んでくれたのと、養成所の先生方が「大学から見学に来てくれて嬉しい、来年も良い学生を送って下さい。」と要望されたこともあったからです。その後、朝日新聞にも紹介されると、志願者が増え、専修大学からの合格者は少し減ることになりましたが、養成所への進学はしばらく続きました。

また小学校への赴任を、ためらった学生も実際に小学校に行くと、子ども達のかわいらしさと、初等教育の素晴らしさから、ずっと小学校教員を続けている方が多いのは、とても嬉しいことです。

小学校の教員の喜びは、日々成長してゆく子ども達を見られることではないでしょうか。今年の5月、96歳でご逝去された恩師の波多野完治先生は「教育は初等教育のほうが難しいが、喜びも大きい。私は小学校の3～4年生を教えるのは大変だけれど、やりがいがあると思うよ。どうしてか判るかね。」と言われたことがあり、私たちはそのことで討論したことがあります。ピアジェについての講義の中で、養成所行きをすすめる時、その話をしたことがよくありました。

児童激増期が過ぎて、養成所は閉校されましたが、何十人もの卒業生が教育界へ出られたのは、ほんとうにいいことだったと思います。埼玉の養成所に進んだ方々も同じように、小学校で活躍しています。そちらへは残念ながら訪問の機会がありませんでした。

養成所がなくなってからは、通信教育で小学校免許を取得される方が増えました。先に記した二部に通われた小学校の先生方を加え

るとその数は相当数に達しました。専修大学教育学会の分科会に、小学校部門があるのは、こういう理由が含まれているわけです。

想い出に残る先生がた

現在のように資格課程の中の教職課程となり、委員長制になったのは、学部も増え、一般教育と呼ばれていた教養課程も共に委員会制になった頃と同じ頃だと思いません。

二学部と短大部のスタート時は、主任制がとられていました。短大主任、一般教育主任、そして教職課程主任です。大学からの任命なので、主任はずっとそのままでした。短大主任は後に附属高校の校長になられた大塚光教授、一般教養主任は後に商学部長を歴任された笹井昭孝教授、そして教職課程主任は、お茶の水女子大学の附属小学校校長から移られた堀七蔵教授で、専修大学松戸高等学校の設立にも関係されました。

堀先生の他には、佐藤保太郎先生（社会科教育）が東京教育大学から見えられました。佐藤先生は教育大学の附属の中学校・高等学校の校長も兼任された方でした。山形のご出身で鶴岡出身の横綱柏戸の大ファンで、よくお相撲の話をされました。

また、時期は多少ずれますが、東京学芸大学（旧東京第一師範学校）から、三浦先生、倉沢剛先生、金子敏先生が教職課程を指導してくださることになりました。

どの先生方も教員養成の学校に長くいらっしゃったので、熱心であると同時にとても厳しい先生方でした。

最初から先生になることを決めている学生と、資格だけは取っておこうという学生とは、どうしても勉強態度に差が出てしまいます。また欠席などは少ない前任校に比較して、大学の出席はとらず自由といった講義に馴れた学生の出席ぶりにも困惑されていたようです。そのため、教職課程独自のきびしい約束ごとが生まれました。

○ 出席日数が3分の2以上なければ受験資格を認めない。

○ 試験は1回だけで、他の科目のように追試験や再試験は実施しない。

○ 教育実習校へは、できるだけ訪問し、指導を行なう。

出席日数をチェックするのは必要だと思いますが、受験の機会が1回だけというのは、かなり厳しいものでした。ガイダンスで説明すると、皆びっくりしたようです。その後も気の毒なケースがあり、検討しましたが、いいかげんな考えで受講する者への歯止めになるということから、このきまりは続いてきました。追試験が認められるようになったのは、10年程前からではないでしょうか。

でも、こうした厳しさがあったからこそ、教員採用試験の合格者も、神奈川県内ではかなり高いレベルを維持してきたのだと思います。

思い出に残る先生がた

1963(昭和38)年に商経学部が経済学部と改称されましたが、その前年の経営学部設立から、商学部、1966(昭和41)年に文学部が設置され、法学部とあわせ5学部となり、教員免許状の種類も増え、教職課程は大きく発展することとなりました。中堅、若手といわれる先生方が来任され、活気がみなぎることとなりました。斉藤秋雄先生、小山毅先生、佐藤英一郎先生はお三人方とも故人となりましたが、教職課程に現在も生きるさまざまな新しい計画を実行してくださった先生方でした。長い間使われてきた「教育実習の手引き」や「実習日誌」「特別講座」などもこの頃作成・実施されたものです。

佐藤先生は「ルソー」の研究者として有名な方ですが、都立教育研究所にご勤務の経験があり、現場の先生方との交流も深い方でした。大学以外の世界でも、幅広い人脈を持たれ、それを専修大学の教職課程の発展に役立ててくださ

った方です。

教職課程の委員長として、複数の任期を頑張ってくださいました。カリキュラムの改変など大変な時期だったのですが、いつも明るくメンバーをまとめてくださった姿がまだ目に浮かびます。いまの教職課程のメンバーの中には先生の教え子もおられますが、私も同じ研究室で同居したので、先生の学生との関わりを拝見し感銘を受けたものでした。17年余を専修大学に尽くされて、1983(昭和58)年9月急逝されました。本当に残念でなりません。

今回、こうした文をしたためる機会を得て佐藤先生・斉藤先生・小山先生、そして堀先生をはじめ教職課程創設の時代にご苦労くださった諸先生のご苦労やご功績に対し、心より感謝申し上げ、ご冥福をお祈りさせていただきたいと存じます。

実現してほしかったこと

教職課程の発展の流れの中で、いろいろな計画がありました。佐藤英一郎先生も熱心に企画されたものに「教育学科」を文学部に新設するということがありました。教職課程というものでなく、教育学科として人材を集め充実させようというものでした。教育学関係の専任教員も多いので、すぐに実現するものと期待したのですが、結局実現はできませんでした。1996(平成8)年に心理学科が増設されたのを見て、当時の残念さを思い出しました。私の記憶違いでなければ、小学校の免許も取得できるようにしようという計画もあり、その中心になられたのは古川・原先生だったと思います。古川先生も幅広い活躍をされたアイデアマンで、教育学科の新設とあわせて、かなり具体的な計画が立てられていました。しかし、実習校としての小学校を持たないということがネックとなり、この企画はストップしたようです。W大が、小・中・高一貫教育のため来年度から小学部を作るというニュース

を聞き、早すぎたのかなあ、実現していたらどうだったろうと、この30年近い昔のことをあらためて思い出しました。

体育学科構想もありました。スポーツが盛んな大学としての構想でした。立派な体育館も完成し、体育学界の高名な教授が何名も着任されました。詳しい事情は当時の私には判りませんでしたが、クリアしなければならない条件が多く、間もなく計画は白紙となり、体育の先生方は中京大学をはじめ、それぞれ体育系の大学へ移ってゆかれました。先生方の中には旧制東京高等師範学校体育科で、私の伯父を知っている方もおり、ご在職中はいろいろな話もできて、楽しかったものでした。これものちにW大で人間科学部というスポーツ選手の学ぶ学部ができたこと、そしてラグビー、駅伝、野球などで活躍が見られるのを思うと、実現していたらなあと残念でなりません。こうしたことも、知っている方は少なくなったと思いますので、一応記憶にとどめていただきたく思い出してみました。教育学科、体育学科など教職にかかわるものとして、私たち自身は実現を信じて話しあったものです。本当に昔々の昔ばなしですが、ご存知の方も少なくなりました。

教職課程への期待

教職課程のことばかり記してきましたが、現在資格課程として、司書、学芸員の課程を含むものとなっています。せっかく大学へ入学したのだから、資格はとれるものはとっておきたいというのが風潮となっています。本学の司書、学芸員課程も他に誇れるものでしょう。

私は学生相談室というところで、学業や履修の相談にもあたってきましたが、新入生の相談は資格のことが多くなってきています。

卒業単位だけでなく、資格のための単位も取得するのですから、十分考えるように助言しています。

以前は1年生から積み上げてゆ

かなければ出来ないようなシステムになっていましたが、現在は途中からも始められるようになり、このように変わって良かったと思います。1年で教育原理、2年で教育心理学など定められた科目が履修されないと、次の科目、特に教育実習へは出られないというシステムは、一理ありますが、余りにも厳重では学生のニーズに応えられないと考えられます。学生の要望を聞き、それを生かしてゆくようにするべきだと思います。カリキュラムも大きく変わりました。私が担当してきた「教育心理学」も、4単位科目であり、「青年心理学」が加わり、「教育・青年心理学」の名称が続きしました。そして、このたびの改定で「発達・学習心理学」(2単位)と、「スクール・カウンセリング」(2単位)となったわけです。もちろん、中学、高校の生徒を理解するためや、学習をいかに進めるかという、教育の場で役立つためのものという目標は変わりありませんが、内容はかなり変わってきていると思います。カウンセリングがその良い例だと思いますが、30年くらい前は、カウンセラー、クライアントという語は、特別なものと考えられ、教育心理学関係のテキストにも簡単な説明だけでした。文部科学省の「生徒指導の手引き」は1965(昭和40)年に作成され、カウンセリングの入門というべき生徒への接し方、傾聴することの大切さなどが取り入れられてきました。現在、カウンセリング、カウンセラーについての理解は広まり、学校カウンセラーも制度化され、小・中学校でもカウンセリング活動が行なわれるようになりました。カウンセリング研究の先輩たちが、学校にカウンセラーの必要性を説かれたのは30年余り以前のことからですが、ここ数年の学校環境の変化が、スクールカウンセラーの採用や派遣という形で実現しつつあります。私から見ると、もっと早くからカウンセリングの正しい意味を理解し、生徒の成長・発達のための援助がなされていればと思

ます。

カウンセリングの本質は、人間の主体性や創造性の成長や発達に関わるもので、教育の本質に迫るものであると言われてきました。

「優れた授業のプロセスは、カウンセリングのプロセスと同じである。」とされ、「授業カウンセリング」として実践されてきています。また「自発協同学習」も、カウンセリングのプロセスを持ち、新しい教育方法とされてきていました。

いま、教師主導の授業から、児童・生徒が主体的に学び、自分の考えを持つようになる教育へと質的転換をはかることが学校教育の大きな課題となってきました。1998(平成10)年の教育課程審議会の答申にある「総合学習」は、生徒たちを理解し、個性にあった援助・助言によって彼らが自ら学び、課題解決に取り組み、自己の生き方を探究できるようになることが求められているものです。

将来学生が教員となり「総合学習」を指導していくには、こうした新しい学習形態を身につけなければなりません。そのためには「カウンセリングマインド」をすべての学生に育てていかなければ、実現することはできないと思います。

教員養成のための授業内容や方法は、現在に受け継がれているものもありますが、大きな変容を求められてきています。新しい教職課程のカリキュラムも、一つ一つの科目の名称からも大きく変わってきていますし、介護体験や教育実習期間の延長などもあり、今後ますます学生を指導する側の私達も、努力に努力を重ねなければならない時代に来ているのだと思います。

専修大学の教職課程は素晴らしい課程です。創設時から教員養成に高い理想を持ち、専任スタッフも充実していました。現在は充実した大学も多くなりましたが、当時は専任が少なく、非常勤の方が多かったのです。(実習校へ挨拶に出向いた時、私以外は他大学全員年輩者で実習だけ担当という囁託

の元校長先生方だったので、びっくりしたものでした。)

現在も専任スタッフも多く、先生方は教育学、社会学その他専門分野で活躍されています。どこの学会に行っても、「専修の誰々さん」として、皆さんがご存知で大変誇らしい思いをいたします。

事務機構もスタート時から、専任の方がいて頑張ってくださいました。藤上太郎さんです。大変長い間、教職の仕事に携わって下さいました。余談ながら、神田校舎が中心だった頃は、職員の方も異動が少なく、庶務の方、教務の方、経理の方、ずっとそのポストにいられました。学部も増え生田へ移ってから、事務の方も異動があり、教職も大勢の方に担当していただくようになりました。皆様、初期の頃の方は部長、次長、課長さんと大学の要職に就かれておいでです。

このように素晴らしい教職課程なのですが、人数も増えたためか、意見交換というか討議というか、お互いをもっと良く知り交流を深めてゆけたら良いのになあと考えています。

若い先生方も増え、いろいろな試みを考えられ実践してみえられますが、周囲からのサポートがあれば、学生のためにもなることが多いのではないのでしょうか。

素晴らしい先輩方の多い教育界に、後輩が続くことを期待したいと思います。

教職課程に永年にわたって授業に実習にと過ごして来たことは、素晴らしい経験であり想い出でした。

記録として、もう少しきちんとした形にできたらと思いますが、資料が乏しく、個人的な想い出の記録になってしまい、申し訳なく思います。

落ち着きましたら、手許に残るガリ版刷りの記録を年表にまとめ、また皆様にお目かけられればと考えております。ご感想やご意見をいただければ幸いです。

はじめに

生涯学習審議会は、1999年10月27日付の報告書「図書館の情報化の必要性とその推進方策について」の中で「地域電子図書館構想」を打ち出して以降、「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」(2000年11月)「2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて」(2000年12月)など、インターネット等の新しい情報通信技術を活用した公共図書館のあり方を次々に示してきた。そしてこれに呼応する形で各地の図書館で、ホームページを開設したり、インターネット接続用のパソコン端末(以下、「インターネット端末」と記す)を館内に設置するなどの取り組みが始まっている¹⁾。公共図書館における地域電子図書館への道筋は確かなものとなりつつある。

常に時代の要請に応えるべく機能することが公共図書館の使命である限り、常にその今後のあり方を考えていなくてはならないのは、筆者を含めて公共図書館に関わる者の宿命であろう。今私たちは、「地域電子図書館」に関する議論や調査研究を幅広く活発に行う必要があるのではないだろうか。

2001年6月、筆者はサンフランシスコ公共図書館新本館に視察の機会を得た。サンフランシスコ公共図書館といえば、『サンフランシスコ公共図書館-限らない挑戦』²⁾においてその組織、経営、運営面の実際が、そして『インターネット市民革命』³⁾で、その電子図書館的な取り組みが紹介され、それぞれ大きな反響を呼んだ。特に1996年に新しく開館した本館は「21世紀の未来型図書館」などと称され、6階までの壮大な吹き抜けのある斬新な館内のデザイン



<写真1> 成人用フロアの情景

とともに、約300台ものインターネット端末が設置されていることで大きな話題を集めた。本稿では、視察の結果とホームページや文献から得た情報にもとづいて、地域電子図書館の観点からサンフランシスコ公共図書館を考察する。

ハイブリッドな施設空間

確かにパソコンは、館内の至る所に数多く設置されていた。ただし、書架の間にうまく溶け込み、自然な光景としてとらえることができる。(写真1)。ほどよい静寂のなかで、ある人は書架を巡り本を探す、ある人は閲覧席に陣取って資料をめくりメモを取る、ある人はカウンターで司書に相談をする。そしてそれらの中に、端末に向かいインターネットを利用する人々の姿が見られる、という具合である。端末の利用者がモニターから目を上げれば、大量の書籍が並ぶ書架の情景が自然に目にはいる。印刷メディアとデジタルメディアを融合させた、いわゆる「ハイブリッド図書館」の施設のあり方を目の当たりしたような感があった。

インターネット利用環境の提供

3～5階の成人用のフロアにあるインターネット端末は、利用カードを持つ人ならば誰でも1日1時間以内という制限のもとで利用できる。3階にあるsign-upのデスクで申し込みをすると、利用可能な端末が割り当てられるという制度になっており、受付や端末の割り振りの仕事はボランティアが担っている。押し寄せる利用者に対して、平等に利用機会を提供するための管理は容易ではないようである。⁴⁾実際、インターネット端末の席は常に満席状態であった。1階には利用カードを持たない人でも利用することができるインターネット端末のコーナーがある。1回につき15分以内の利用が条件で、利用の手続きは不要であるが、常に6～7人の待ち行列ができる程の混雑ぶりであった。常時満席のインターネット端末の傍らに、^{ひとり}人気のない端末が並んでいる。使ってみるとこれはテキストベースの端末(Lynx)であった。図書館ではOPAC端末として位置づけているが、インターネット探索も可能である。ただしNetscapeやIEに慣れた身にはどうしても使い勝手

が悪い。また、各閲覧席に通信回線ジャックが取り付けられているということで、ノートパソコンを持ち込み閲覧席で利用する人の姿を探したが、そのような光景はごくごくわずかしかなかった。その理由が気になっていたが、後に閲覧席でもテキストベースの機能しか使えないことを知り⁵⁾納得した次第である。

児童フロアでは、カウンターから目の届く位置に端末が12台設置されている(写真2)。ここも常時満席である。端末のそばには常に成人の図書館ボランティアが一人いて、子供たちに話しかけたり、質問に答えたりしていた。

図書館ではインターネット利用における図書館の責任範囲を示す文書(Internet Use Policy)を作成し、利用者に公表している。⁶⁾また、児童に対してはこれとは別に、諸注意を分かりやすくまとめた文書を公表している。

①Internet Use Policy

この文書では、インターネットで得られる情報が内容的に玉石混濁であることを利用者に周知するとともに、そうした情報源を利用者に提供することに対する図書館の責任範囲を明らかにしている。

内容は以下の通りである。

- インターネットで得られる情報には、不正確、不完全、古い、法的・倫理的に容認しがたいといった類のものが多数存在する。

- ただし図書館は、図書館以外のウェブサイトの内容については、監視も調整もしていない。また図書館は、個人の利用に関するモニタリングや、フィルタリングソフトを導入することはしていない。

- 従って図書館は、他のウェブサイトの内容について保証するものではなく、ウイルスや有害情報などの責任も負わない。また図書館は、インターネットで得た情報を利用することによって利用者側に生じた被害についての責任を負うものではない。

- 図書館ではe-mailのアカウントの発行はしないが、すでに他でアカウントを取得しているのであれば、図書館の端末からメールの利用は可能である。ただし、その利用において生じた問題(被害や苦情)に対して、図書館は責任を負わない。

- 子供のインターネット利用についての責任は、保護者にある。

- インターネットを利用した情報の配布や情報の複製については、

法律で規制されている。図書館はすべての利用者が法律に基づいた行動を取るよう期待するものである。

②児童の利用に関する文書

KIDS' PAGEには「Going on-line?」というタイトルのもとに、3つの文書が用意されている。⁷⁾(館内には、同じ内容を印刷した配布用のパンフレットも置いてある。)

一つは、信頼性の高い有効な情報源を選択する方法、すなわち情報の内容を評価する上での着眼点を子供に教えることを目的としたものである。もう一つは、「住所、氏名、電話番号など個人情報を公表しない。」「不快な情報を見たら、両親に相談する。」「インターネットの利用によって知り合った人と会う場合には、両親の許可と同席が必要。」「利用時間、アクセスするサイトの範囲などを両親と相談して決めておくこと」など、バーチャルな社会の中でいかに身を守るかという観点からまとめられている。三つめは保護者にあてたもので、子供が賢い利用者となるよう導く立場にあるのはあくまで保護者であるという観点から、「自身も利用し、どのようなものが経験すること。」「子供の利用に関する規則を作っておくこと」といった内容がまとめられている。

バーチャル空間における図書館サービス

電子図書館であるからには、非来館者に対するサービスも展開している必要がある。サンフランシスコ公共図書館ではインターネットを利用したバーチャルな空間において、どのようなサービスを提供しているのか。図書館が作成するホームページのコンテンツを調



＜写真2＞児童フロアの情景

べた（2001年8月現在）⁹⁾。このバーチャル空間における図書館は、もちろん24時間年中無休である。サービス対象は全世界の人々であり、多少大げさに言えば、サンフランシスコ公共図書館における地球規模の図書館サービスということになる。

コンテンツの構成ををとおよそ分類すると、①各種データベース②リンク集③図書館案内④レファレンス・サービス⑤児童・青少年向け情報、となる。

①各種データベース

データベースの種類は、所蔵目録（図書・雑誌・新聞）と、外部商用データベース（Reference Databases）、地域情報（San Francisco Community Connection）、サンフランシスコ関連の写真コレクション（San Francisco Historical Photograph Collection）、などがある。

「所蔵目録」の検索画面からは、図書のみならず楽譜、e-book（オンライン書籍）、CD-ROM、ビデオ・CD・カセットテープなどの視聴覚資料等も検索できる。資料の種類を特定して検索することも可能だが、一括検索もできる。一部の図書については個々の書誌情報の画面において、表紙の画像やあらすじ、書評などを追加情報（Additional information for this title）として知ることができる。書誌画面からの予約や、検索結果を個人ファイルへダウンロードすることも可能である。予約は図書のみで有料（5セント）、図書が利用できる状態になったことを図書館はe-mailによって予約者に通知する。雑誌・新聞については、Telnetによるテキストベースの検索のみとなっている。

「外部商用データベース」の画

面には、EBSCO、OCLC First Search、Books in Printなど、名立たるメニューが並ぶ。図書館カードを持っていれば、雑誌新聞記事索引（二次情報）や本文（一時情報）、人名・企業情報、文芸批評等70以上のデータベースから幅広い情報を得ることができる。¹⁰⁾「地域情報データベース」では、サンフランシスコの行政情報をはじめ、「ボランティア団体」のような組織や各種プログラムやイベント、地域の施設など、日常生活に密着した情報の検索が可能である。サンフランシスコ住民の「現在」の暮らしを支援するデータベースと位置づけられる。一方で「サンフランシスコ関連の写真コレクション」は「過去」を伝えるに絶好の情報源である。これは、図書館6階History Centerで保存する1850年以降のサンフランシスコの風景や人々の写真250,000枚のうち、デジタル化された30,000枚を公開したものである。「教会」「橋」「学校」といった主題や各年代別の検索が可能である。

②リンク集

シティガイドや地方新聞社など、サンフランシスコ関連のサイトへのリンク集（Local Links）と、「コンピュータ」「園芸」「教育」「女性」など一般的な主題についてのサイトを、図書館スタッフが選択し体系化したものが作成されている。

③図書館案内

図書館案内としてはオーソドックスな情報といえる施設の利用案内（場所や開館時間、利用規則等）、新着図書情報、図書館主催の展示やイベントの案内などはもちろん提供されている。加えて、新館長の就任やイベントの反響など、図書館に関する新しい動きを伝える

情報や、資料収集方針など図書館自身に関する様々な情報が発信されている。

④レファレンス・サービス

INFO@sfpl.lib.ca.usのメールアドレスを公開して、電子メールによる質問を受付けている。回答は48時間以内に質問者へのメールアドレス宛に送られる。ただし、対応可能な質問は、短めの事実確認的な内容のものと限定しており、時間を要する調査研究的質問は来館するよう促されている。

⑤児童・青少年のための情報発信

児童のためのKIDS' PAGEと、青少年（ヤングアダルト）のためのTeen Pageを用意し、ブックリストやイベント、図書館案内、リンク集などの情報を提供している。随所にイラストを散りばめるなど、視覚的にも成人とはまた違った工夫が凝らされている。

サンフランシスコ公共図書館から学べること

以上、地域電子図書館という観点からサンフランシスコ公共図書館の状況をみてきた。これから取り組みを始める我が国の公共図書館にとって、先発館の事例はやはり参考になる点が多い。

①インターネット利用環境の提供

インターネットを利用して得られる情報は、行政上の各種手続き、子育て、税金、医療や介護に関してなど、もはや趣味や娯楽、教養の域を越えている。すなわちインターネットは、日常生活において必要不可欠な情報源といえる。パソコン購入やプロバイダーとの契約などによって、家で個人的な利用環境をつくることも可能ではある。しかし一方で、全ての人々が平等に利用できる環境が公の場に

整備されている必要もあり、それはまさに行政の役割・責任である。公的機関の一つである公共図書館は、従来から「情報提供」をその役割の一つとして標榜してきた。したがって公共図書館が、住民のだれもが無料でインターネットを利用できる「場」となることは、ごく自然の道筋といえよう。図書館にとっては、住民に提供する情報の幅を広げることができるという意義もある。

ただし図書館には、図書、雑誌、新聞、ビデオなど、様々な情報源が配置されている。そういう場において、ただ漫然と機器類を並べて置いておくということではよいのであろうか。サンフランシスコ公共図書館のハイブリッドな光景は、館内の空間をいかに創造していくかという点において参考になる。また各所に置かれたほとんど人の寄りつかないテキストベースの端末の情景からは、技術の進展に応じたハード・ソフト面の更新をどうするかという課題が想起される。技術の動向から取り残された機器は利用者から見向きもされない。可能な限り、より新しいものをいち早く導入し続けるようにしておかなければならないことは確かである。

さらにインターネット特有の事項として、得られる情報の内容の質が玉石混淆であるという認識を、利用者と共有しておく必要がある。図書館としてフィルタリングソフトを導入するかどうかという検討も必要であろう。サンフランシスコ公共図書館が児童の利用に対して、ウェブサイトの評価や不快な情報に対する対処など、メディアリテラシーの領域に踏み込んだ内容のメッセージを発信していることは、図書館の一つの役割として注目さ

れる。

②バーチャル空間に発信するコンテンツ

地域電子図書館においては、図書館のホームページへのアクセスも、来館利用と同様の一つの図書館利用形態としてとらえていく必要がある。従って、OPACや利用案内といった来館を前提としたコンテンツとともに、ホームページ自体が一つの図書館として機能するべく、豊富な情報やサービスを取りそろえておく必要がある。また図書や雑誌と同様に、収集するだけでなく、それらを取り出しやすい形で組織化しておく必要もある。図書館側の創意工夫が最も必要とされる部分である。サンフランシスコ公共図書館の地域情報データベースや写真コレクションは、公共図書館の重要な役割である地域資料（郷土資料・行政資料）を、デジタルな形としていかに収集しバーチャルな場でいかに提供するかということを考える上で大いに参考になる。

公共図書館関係者は地域電子図書館の実現にむけて、走りながら考えるもよし、じっくり考えてから走り始めるもよし、とにかくさっそく行動を開始する必要がある。

注・参考文献

- 1) たとえば、<http://www.avcc.or.jp/library/index.html>では、先進的な取り組みを実践する事例を紹介している。
- 2) 悦子・ウィルソン著 小川俊彦編『サンフランシスコ公共図書

館--限りない挑戦』日本図書館協会 1995

3) 岡部一明著『インターネット市民革命--情報化社会・アメリカ編』御茶の水書房 1996

4) Stephen Lee "A Low Tech Answer to a High Tech Problem : The Time Shift Plan(TSP)" *Public Library Quarterly* Vol.18(1) 2000

5) http://206.14.7.53/infdir/IS_Computers.htm#Laptop (last access 2001.8.31)

6) http://206.14.7.53/documents/internet_policy.html (last access 2001.8.31)

7) <http://206.14.7.53/edc/resource.htm> (last access 2001.8.31)

8) <http://206.14.7.53/news/computerclasses.html> (last access 2001.8.31)

9) <http://sfpl.lib.ca.us/> (last access 2001.8.31)

10) サンフランシスコのみならず、アメリカでは多くの種類の商用データベースを利用できる公共図書館が少なくない。このことは、一般市民の情報環境における日米格差を表すものとしてしばしば指摘されている。たとえば「市民の情報拠点」河北新報社 Web日誌 (<http://www.kahoku.co.jp/staff/sfinfo/sfinfo.htm> (last access 2001.8.31))

教 職 課 程

Index

1	卒業生から	14
2	教員採用試験体験記	18
3	教育実習生から	21

卒業生から（社会）

新潟県立巻工業高等学校教諭 祝 政弘（平成8年 文学部人文学科卒業）

新

潟県の教員として採用され、はや半年がたちました。現在は初任者研修を受けながら、教師としての基礎的なことを学んでいる毎日です。このようにまだまだ未熟な私ですが、少しでも教師を目指すみなさんの参考になれば幸いです。つつこの文章を書いています。

1．初任者研修「同じくみんなも悩んでる」

週に1日「教育センター等の研修日」が設定されています。そこで、月に2回ないし3回は全県あ

日の研修で初任者による実践報告がありました。そこでは、プリント・音楽・絵画や漫画を活用した授業、身近な例に引きつけた分かりやすい説明など様々な工夫がみられました。みんな生徒に興味を持たせるために大変苦労しているのです。

私の学校はいわゆる底辺校と呼ばれる学校ではありません。しかし、この学校でも50分間講義形式の授業をして生徒が集中してくれるかというとなかなか難しいといわざるを

ら、現在部員数9名でなんとか頑張っていますが、サッカーは11人です。スポーツであるため、なかなか難しいのが現状です。しかも、毎日全員クラブ活動に出席すればいいのですが、誰かしら休んでしまいます。それも多くの顧問や部長に断りなく無断欠席をするのです。団体競技で一番大切な「チームワーク」を学ぶ、その観点から、無断欠席については厳しく指導しているにもかかわらず、うまく生徒に伝わっていない状況で、日々頭を悩ませています。

また、私自身サッカーというスポーツは未経験なので、その点でも苦労しています。

4．校務分掌について

教諭として勤務すると、教科指導のほかに校務につかなければなりません。私は「生活指導」の分掌についています。仕事の内容は、なんらかの問題を未然に防ぐための働きかけ、問題が起きたときの事実の確認、問題を起こした生徒への指導などです。現在は比較的落ち着いた状況であるため、未然に防ぐための働きかけが中心になっています。

5．最後に

まとまりのない文章になってしまいました。最後に一言述べておきます。教師の仕事は「生徒の自己実現を支援する」ことだと私は考えています。そのために、生徒に対して教科指導・クラブ指導他、学校生活全体を通じていろいろな働きかけをしています。「生徒のため」ということを第一義として考えることができる人、それが教師としての資質だと思います。そのような思いを持った専修大学のみなさんと同じ教育の世界で共に働けることを願っております。



中央が祝先生

るいは地域ブロックごとに集まり、研修を受けています。内容は教育全般、生徒指導や教科指導といったことです。形式は講義形式のものが多く、なかには小集団による演習や実習形式のものもあります。ここで一堂に会する初任者と話をしていると「ああみんな同じような悩みを持っているのだな」と感じさせられます。そういったことをいくつか挙げてみたいと思います。

2．教科指導

教師として軸となる活動が教科指導です。ですから、非常に苦労し、悩んでいます。それは他の初任者にとっても同じようです。先

えないという状況です。その中でいかに生徒に興味・関心を持たせ、ねらいに沿った授業を展開できるか、そのための教材をどうするか、日々勉強です。

3．クラブ指導

「クラブ運営がうまくいかない」という声も多く聞かれます。生徒間の人間関係や運営方法での悩みは尽きないようです。

私は現在サッカー部の顧問として活動しています。私の学校での悩みは人数が集まらないということです。学校自体が8クラスしかない小規模な学校であるうえに、クラブ活動をやりたがらなくなっている傾向がみられます。ですか

卒業生から（国語）

茨城県立松丘高等学校教諭 小峰 幹一（昭和63年度 文学部国文学科卒業）

専修大学を卒業して早14年が過ぎました。そして、平成元年に茨城県の高校の教員として採用されて13年目を迎えています。お恥ずかしい話ですが、採用当時は「日本の教育を変えてやる！」と、だいぶ気負っておりました。しかし、赴任後新学期が始まり先生方の生徒に対する接し方をみて、打ちのめされました。現場の迫力、というのでしょうか、めいっぱいの情熱を生徒に傾け、細やかな指導をなさる先生方の姿を目の当たりにして、私などはせめて周囲の先生方の足を引っばらないようベストを尽くすしかないのであって、「日本の教育」を云々できるほどの力量は自分にはないのだとつくづく実感しました。そこから13年、未だに挫折や苦悩・迷いから解放されることなく現在に至っています。正直に言うと、教員には向いてないのかな、と思うことさえもあります。こんな弱気なことを書いてしまうと、これから教員になろうと夢や希望を抱いて勉強しているみなさんのやる気に悪影響を与えてしまうかもしれませんが、そんな弱気を吹き飛ばすほどの充実感があるからこそ、なんとかここまで勤められたこともまた事実なのです。

教員の仕事というと、教科を教えることが第一に浮かぶと思います。しかし、実際はそれだけではありません。学校の運営上必要になる、行事の企画や授業計画、生活指導に進路指導、図書の仕事などを先生方で分担して行う必要がありますし、クラス運営や学年の方針ももちろん考え、実践することにもなります。部活動も持つし、生徒会活動や委員会活動、学校全体の新しい流れを考える～検討委員会のメンバーにもなるかもしれません。私はてっきり教科を中心にして、それ以外の仕事は比重が軽いのかと思っていました。で

も、そうではないのです。ややもすると教科以外の仕事に追い立てられ教材研究がおぼつかない、ということもあります。それでも、そのように多岐にわたる教育活動の目的をじっくり考えてみると、たった一つであることに気づきます。

生徒と心が通じないときは悲しいです。クラスから総すかんを食ったこともあるし、男子生徒に囲まれる、といった状況もありました。クラスの生徒が学校を去る、というのも何度か経験しましたが、やはり切ないものです。ある年の文化祭では、クラス全員で作上げた大迷路を、心ない見学者にずたずたに壊されみんなで大泣きしたこともありました。悲しい状況のたびごとに、仲間のありがたさを感じます。仲間とは、同僚はもとより生徒たちでもあります。生徒が目を輝かせて勉強やスポーツに励む姿や、雑誌を持ち込んで楽しそうにしている姿を前にすると沈んだ心も和みます。結局、うれしいときも悲しいときも生徒の中にいるわけです。ヘレン＝ケラーがことばを覚えはじめ、学ぶことが楽しくなってきた頃、サリバンはヘレンの

表情が豊かになったことを発見します。そのときのサリバンの気持ちがどうだったか、今はよくわかる気がします。

教育基本法の序文に、「（この）理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである。」という一節があります。一方で、林竹二氏のことばに「学んだという唯一の証は変わることだ」というのがあります。これらを総合すると、教育によって生徒を変えるのではなく、教育を受けることで生徒が変わってゆくと考えられます。親が、あるいは社会が教育に期待すること、それは子ども・生徒の人間的な成長にあります。生徒たちの明るく豊かな表情こそ、きっとこの成長の源なのでしょう。そういう表情を引き出すための良質な教育活動を行うのが教員のつとめだと思います。

駄文を連ねてしまいました。教員になりたいと勉学に励むみなさんに、心からエールをおくります。そして、生きることを謳歌するすべての行動が、教員となったときにプラスの方向に作用することをお約束してペンを置くことにいたします。



野球応援風景（指揮をとる小峰先生）

卒業生から（英語）「自己研鑽の継続を」

東京都新宿区立西戸山中学校長 竹田 秋人（昭和47年 文学部英米文学科卒業）

昨年の夏、英米文学科の伊部教授が主宰する第9回専修大学英語科教育研究会が生田キャンパスで開催されました。この会は英米文学科の卒業生で、現在中学校、高校、教育委員会等で教育に携わっている皆さんが集まり、教育の動向や情報の交換をし、更に親睦を深めることを目的として開かれています。

私もお声掛けを頂きましたので、卒業してから28年振りに母校を訪問しました。「ECC（英語会話クラブ）では座間の米軍キャンプをよく訪問し英語力を鍛えたこと」「生田緑地の芝生でギターを引ながら友と語り、歌を唄ったこと」「教職課程の単位を取得するために遅くまで授業を受けたこと」「当時は珍しかったLL教室での授業」「多摩川で友とよくボートに乗ったこと」など、当時の様々な思い出が走馬灯のように脳裏に浮かび、しばし校舎の前にたたずんでしまいました。

私が入学した頃は、英米文学科が開設され間もなかったため、卒業生もまだいませんでした。このため、大学全体にも英米文学科に寄せる期待も大きく、教職課程も含め各教授の授業にも熱がこめられており、思わず授業にも真剣に取り組んだものでした。当時、外国人と直接話す機会がなかった英語会話の授業は今でも忘れることは出来ません。

この様な4年間の学びが礎となり、現在につながっていると今でも確信しております。初志貫徹の強い決意で励まし合い、切磋琢磨した多くの仲間が各地で教師として活躍しております。「努力は裏切らない」を肝に銘じながら、自らの力で研鑽を重ね、多くの皆さんが教職に就き、教育界に新しい

風を注入し、21世紀をたくましく生きる子どもの育成にあたって欲しいと思います。そして、専修大学英語科教育研究会や教育学会で大いに教育を語り合えることを願っております。

今、学校は大きく変わろうとしています。

中央教育審議会、心の教育、教育国民会議、今後の地方教育行政の在り方について等、今後の日本の教育の在り方について国を挙げて一連の教育改革プログラムが提示されるなかで、平成14年度からは新学習指導要領が完全学校週5日制と一体的に全面实施されることとなり、学校教育は大きく変わります。各学校では本年度までを次年度からの新教育課程実施に向けての移行措置期間とし、様々な実践やシミュレーションが行われております。

これからの教育ではどのような学力を育成することが強く求められているのでしょうか。もはや、「従来は」「今までは」「学力とは知識の量」等の考え方では困ります。これまで学校教育が、ややもすると、画一的で、教師主導で、一定の知識や技能を一方向的に注入し、それを子どもが受け身の形で身に付ける教育に偏っている傾向が見られましたが、これを根本的に改善し、子どもが学習の主体となり、自らの体験や学習活動を通して、知識や技能だけでなく社会の急激な変化に主体的に対応できる諸能力や、たくましく生きていく力を身に付けさせる教育を実現させることが何よりも重要です。中央審議会等の様々な答申、報告文書、新学習指導要領の内容等を熟読し基調の転換を図ることが必要です。もはや、チョークと教科書の時代は終わったと言っても過言ではあ



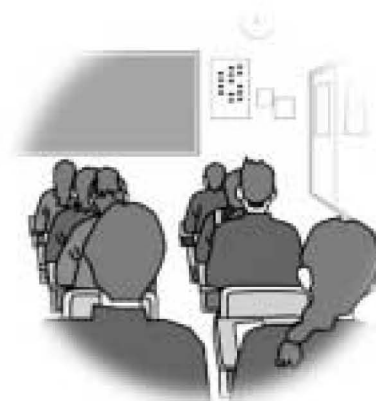
りません。ご健闘を祈ります。

東京都教育委員会が望む教師像（各校種共通）（平成13年度「東京都教員採用選考案内」より）

①教育に対する熱意と使命感を持つ教師 ②豊かな人間性と思いやりのある教師 ③実践的な指導力のある教師

東京都教育委員会が望まない教師

①社会的ルールや礼儀作法に欠け、人間関係に疎い教師 ②自己の欲望や感情に流れやすく、自立心・自制心に乏しい教師 ③マニュアルに依存し、自己啓発のできない教師（参考）



卒業生から（商業）

東京都私立東京経営短大村田女子高等学校教諭 鈴木 美樹（平成12年 経営学部経営学科卒業）

私は、大学を卒業してから1年間、一般企業に就職しました。従って、教員になってからまだ数ヶ月しか経っていません。一般企業と学校というのは、全く違った世界で毎日試行錯誤の連続です。このようにすべてが未熟な私ですが、この数か月の格闘の様子を語ってみたいと思います。

1. 教員になるにあたって

教員になるにあたって、覚悟していたことがあります。それは、休みが少ないということです。学校というのは、生徒が休みだからといって教員も休みかという、それは違います。生徒が休みの日には、本校においては保護者会や中学3年生を対象とした体験入学を行ったり、また商業高校ということもあって数多くの検定試験を実施しています。その他には、日直や部活指導もあります。この仕事の厳しいところは、1年目でも10年目でも同じ仕事をこなしていかなければならないところだと思います。

2. クラス運営

右も左もわからない私が、初めから1年生の担任を任されることを知った時は、本当に不安でいっぱいでした。最初の1～2ヶ月は、とにかく精一杯で余裕なんて全然ありませんでした。しかし、生徒

というのは、そんな私をよく見ているもので、ある一人の生徒から、「先生の態度で傷ついている子がいますよ。」というメッセージをもらいました。私はその時、ハッと我に返り、生徒のことを考えていなかったのだということに気づきました。その1～2ヶ月間は、ベテランの先生方のクラス運営に負けなようにと意気込みすぎたのかも知れません。もちろん、同じようにするには、力量が足りません。でも、少しでも近づきたいと思っていました。しかし、このメッセージをもらってから自分らしいクラス運営を目指せるようになりました。その頃から、生徒とのコミュニケーションも多くなり、信頼関係が生まれてきたのです。

3. 授業について

私は大学時代に、塾の講師のアルバイトをしていました。よって、教えることには多少自信がありました。ところが、そんな自信はすぐに崩れていったのです。というのは、私から見た塾の生徒というのは、勉強することを主な目的として通っていましたが、学校は勉強がすべてではなく、集団生活の中で勉強をし、クラブ活動をし、友達との交流を深めるなど学ぶものは多くあります。そんな状況の中で、私は授業でも生徒指導にお

必要があります。また、生徒から受ける質問にマニュアルはありません。つまり、専門教科に長けているだけでは務まらないのです。もちろん、教員になってからも勉強することは大切であり、不可欠ですが、早い段階でマルチにわたってたくさんの引き出しを作っておくというのではないかと思います。

4. 職員室での私

初めは、正直に言って異国の世界にいる気分でした。ベテランの先生に囲まれて仕事をするということで、私は勝手にプレッシャーを感じ自分を追い詰めていたのです。先が見えない状況の中で、予定表を見てもどんな行事なのか、何を準備すればいいのか、たとえ説明を聞いたとしてもわからないのが現状であり、辛いところもあります。時には、新しいことばかりで会議の内容さえつかめないこともあります。このように、「百聞は一見にしかず」というように実際に体験してみないと何もわからないし、前に進むこともできません。失敗を恐れるのではなく、積極的になることを心がけています。

5. 最後に

本当にまだ数ヶ月しか経っていない私ですが、これから教員を目指す人や教育実習に行かれる方の参考にと、内容には私の偏見もあるかと思いますが、今の気持ちも含め書かせて頂きました。身体資本の教員ですので、肉体的にも精神的にも健康で丈夫でなければなりません。その上で、素敵な先生を目指して頑張ってください。

最後に、信念を持って、一生懸命やることによって生徒とわかりあうことができるということを付け加えさせていただきます。



軽井沢教室にて（左が鈴木先生）

いても、一つだけに留めていることがあります。それは、『教える』のではなく、『理解をさせる』ということです。しかし、授業一つをとっていても生徒をひきつける為に様々な話を組入れ、工夫を凝らす

教員採用試験体験記（社会）

神奈川県横浜市立浜中学校教諭 木村 瑠美子（平成12年 文学部人文学科卒業）

私が教師になりたいと思ったのは中学生のときでした。最初はただ漠然とした思いでしたが、大学に入学するときには教職課程を履修しようと決めていました。とはいっても、早くから採用試験の勉強をしていたわけではありません。勉強らしい勉強を始めたのは、次の年に採用試験を控えた、大学3年生の11月ごろでした。しかし、むらのある勉強法だったということもあり、現役のときには1次試験で落ちてしまいました。私立の学校もいくつか受験しましたが、結局卒業するまで決まらず、卒業後は塾の講師のアルバイトをしながら、採用試験の勉強をしていました。そして、昨年、2回目の受験で横浜市の中学社会科に無事合格することができました。私の勉強法が決してよかったとは思いませんが、少しでも皆さんのお役にたてばよいと思います。

最初に、勉強というわけではありませんが、採用試験の対策ということで、まずは情報を集めるということが大切だと思います。集め方としては、人に聞くなり、本や雑誌で調べるなり、方法はいろいろあると思います。私はこの情報収集に関しては、少しずつですが、1年生のころからしていました。私がしていたのは、授業の空き時間などに、ときどき図書館にいった雑誌を読むというものです。雑誌としては時事通信社の『教員養成セミナー』や協同出版の『教職課程』があります。その他には、同じ教師を目指す友人に情報を聞いたり、毎年10月に生田校舎で開かれている教職公開講座に参加しました。

次に実際の勉強法ですが、私は昔から家などで勉強するよりも塾などに通う方法に慣れていたため、

3年生の11月から、河合塾と時事通信社が提携して行っている教員採用試験受験のための塾に通いました。私の受講した講座は教職教養と一般教養と中学社会と論作文です。予習復習をきちんと行っていなかったため、現役のときには落ちてしまいましたが、採用試験にはどういうものが出て、どういうところを押さえればいいのかということ把握するにはとても有効でした。

しかし、実際に塾に通うのは時間もお金もかかるので、なかなか難しい人も多いと思います。通っていても、自分で勉強しなければ意味がありません。勉強法としては問題演習やまとめるなどいろいろとあると思います。そして早く自分に合った勉強法を見つけることが大切です。私はまとめることよりも問題演習中心の方が向いていたので、塾のテキストの他は市販の問題集を使用しました。その中で役立ったのは時事通信社の『教職教養の頻出問題』と『中学社会の頻出問題』です。他にもいろいろな問題集が出ているので、自分が1番使いやすいと思うものを見つけてください。問題を解いていると、どういうところを押さえればよいのかが見えてくると思います。それらをしっかりと頭に入れておけば、筆記試験は大丈夫だと思います。

論作文や面接試験に関しても、雑誌の特集などで、どういうものが出るのかを把握してください。それよりも大切なのは自分なりの



教育観を持つことです。そして、それらをもとに論作文は序論・本論・結論の3段構成で書き、面接は聞かれやすいものの答えを用意しておけばよいと思います。

都道府県によっては、試験内容に模擬授業やロールプレイング、集団討論などがあったりします。大切なのは、自分の受けるところの傾向をつかみ、それに合わせた対策をすることです。どんな内容であっても、あまりあせらずにやってください。不安な気持ちはみんな同じだと思います。

現在、実際に教員になって、他の初任者の人と接してみると、本当にいろいろな経緯の人がいるなど実感しています。だから、皆さんそれぞれ自分に自信を持ち、絶対に教員になるんだという強い気持ちを持ってがんばってください。現場から心より応援しています。

教員採用試験体験記（英語）

福島県立喜多方商業高等学校教諭 吉田 ゆきえ（平成11年 文学部英米文学科卒業）

私が本気で教師になろうと考え始めたのは、アメリカ留学中の大学3年生の時でした。アメリカ留学中にどうして？と思った方が多いかもしれません。留学中に、いろんな国の人々と知り合い、その人たちや日本語クラスをとっている友人たちに日本語を教えているうちに、教える立場にいる自分も、相手からいろいろなことを学んでいる、なんて素晴らしいことなんだろう、と感じたのです。自分がそれまでずっと母国語として話している日本語では、なおさらそのことを感じずにはいられませんでした。

アメリカ留学を終え、大学4年生の時、個人経営の塾でアルバイトを始めました。留学中に教員になるという決心を固めていたので、塾でのアルバイトは、採用試験前の楽しんで出来る準備になりました。また、中学生と高校生を教えていたので、彼らのための予習は、私にとっても採用試験のための総合的な復習にもなり、大いに役立ちました。留学していた関係で、教職課程だけは一年ずれてしまったので、大学を卒業後、履修生として大学に半年残り、教育実習をしたわけですが、このことは私にとって、大変好都合でした。一年ずれたことで、採用試験に向け、人よりも余裕を持って、集中して勉強ができたからです。すべてが無駄なく、うまく機能して、本当に私はラッキーだったと思います。

母校の高校での教育実習では、教材研究にはかなりの時間をかけ、大変お世話になった伊部先生と豊田先生に教わった、自分でも納得のいく方法で、一時間一時間をこなしました。とにかくやれるだけのことをやれば、自信も実力も、また、運もついてくると信じて疑

わなかったからです。試験前は、「中高英語の頻出問題」と一ツ橋書店の「即答型 ポケットランナー 教職教養」「教職教養教育法規 これだけは暗記しよう」を集中的に繰り返し解き、大学の授業の復習、特に、英潮社の「新英語科教育の展開」を何度も読み直しました。おかげで、川崎市の一次試験と福島県の一次試験をクリアすることが出来ました。残念ながら、川崎市の方は最終で不合格となりましたが、福島県の方は、ミスはしたものの（トラブルがあった方がいい結果を招くみたいです笑）適性検査、英語での個人面接、一般の面接、集団面接、小論文、という内容の二次試験を通過し、晴れて教員になることができました。

今、私はとても楽しく教員生活を送らせてもらっています。アメリカで味わった、お互いに学びあえる素晴らしさを毎日感じています。確かに、楽しいことばかりではありません。教材研究を夜遅くまでやることも少なくありません。一度に多くの仕事を片付けていかねばならない中で、突発的な問題が起こり、消化しきれず、パニック状態になることもあります。しかし、大変なのは自分だけではありません。

どの職場の人たちもみんな同じだと思います。それに、私には私を慕ってついて来てくれるこれからの日本を支えてくれる子供たちがいます。生徒が授業で

理解できた時に見せてくれるあの笑顔が、忙しくて大変だという私の気持ちを消し去ってくれます。生徒と一緒に何かを共感したり、大笑いしたり、一緒に悩むこと、これが私にとって、今の一番の幸せです。

早いもので、もうすぐ教員生活3年目に突入します。今年は一学年の担任にもなり、教材研究はいつも後回しになって、教育実習時や1年目の時のように、なかなか教科指導の勉強に多くの時間を割くことができない状況にあります。また、自分の勉強時間が減り、自分の英語の能力がだんだん低下していく恐怖に駆られることもあります。現在の私にとっての一番の課題は、時間をうまくやりくりし、自分のスキルをアップさせ、それを授業の中でも生かしていくことです。みなさんが将来の夢に向かって励んでいるように、私も常に目標を持って頑張っていこうと思います。今回、この体験記を書かせていただいたおかげで、初心に返ることができました。目標を早く見つけ、自分を信じて前進していった下さい。最後に私の好きな言葉をみなさんに送りたいと思います。

You will because you can!



生徒と笑顔!!（右側が吉田先生）

教員採用試験体験記（商業）

静岡県立相良高等学校教諭 石部 守好（平成12年 商学部商学科卒業）

専

任教員になって早いもので5ヶ月が過ぎようとしています。振り返れば、一日一日を消化するのに精一杯で生徒とゆっくり話をしたり、生徒と一緒にスポーツで汗を流すといったこともなかったように思います。採用試験を突破し、「やっと教員として頑張っている」と考えていましたが、いざ学校に勤務してみると学校という組織に慣れること・教員同士の人間関係・初任者研修などで余裕のない学校生活が待っていました。現に、今講師をやられている先生方にとっては、「贅沢な悩みだ」と言われてしまうかもしれませんが、大変忙しい毎日を送っているのが現状です。だから、この体験記を機会にもう一度、教師という職業を考えてみたいと思います。

私が、教師を目指すようになったのは、大学4年生でした。多くの学生さんと同じように、自分の職業として何が合っているのか最後の最後までわかりませんでした。そんな時、自分が高校時代に商業科目を勉強したことで、今まで抱いていた劣等感を打破することができ、しっかりとした目標を持てたことを思い出しました。だから、自分のように劣等感を抱いて商業高校などの職業高校に入学して来

る生徒に対して、自分が味わった感覚を体験させたいと思い教師という職業を目指すようになりました。

いざ教師を目指そうとしても、教員免許はなんとなく取ったような感じでし、4年生の時に受けた教員採用試験は、形だけのものだったので勉強は一からのやり直しでした。残り少ない学生時代を生かすとともに、何を勉強してよいかわからなかったので、教職教養に関しては専門学校に通いました。今思えばお金はかかりましたが、何もわからない問題集をやるよりは、大変効率よく勉強ができたように感じます。専門教養に関しては、一冊で商業科目の勉強ができる問題集を買って、毎日コツコツと勉強しました。一般教養に関しては、あまり勉強しなかったのが現状です。なぜかという、範囲も広いですし、時間もなかったので教職教養と専門教養に絞って勉強を進めました。しかし、採用試験の勉強は始めたものの、卒業してからの進路はどのように考えていたかと言うと、静岡県で講師の募集があればどこへでも行って経験を積もうと考えていました。それでなければ、採用試験まで勉強に集中しようと考えていました。

そんな時に運良く、3月に非常勤講師として採用され4月から講師としてスタートを切りました。しかし、商業科目の中で5科目、6クラスを受け持つことになり、採用試験



の勉強よりも明日の授業の勉強をするのに精一杯でした。採用試験の勉強は、土日にまとめて勉強するしかない状態が採用試験のある7月まで続きました。

今思えば、教壇に立って1年目は無我夢中の毎日でしたし、教材研究の毎日だったと思います。だから、採用試験に合格できたときは大変に嬉しかったのではないのでしょうか。また、今、その時の経験が生きているということを実感しています。だから、皆さんも大学4年生の時に、採用試験に合格できなくても焦らないで、講師や社会人を経験してから採用試験に挑戦してもかまわないと思います。いざ教壇に立って生徒に話をする時は、いろいろな経験をした先生の方が魅力的だと私は感じています。だから、これから教師を目指そうとしている人やまだ迷っている人も色々なことに挑戦して欲しいと思います。最後に、自分が今感じていることは、どんな職業でも、楽しいときもあれば辛いときもあると思うので、毎日を前向きな姿勢で送ることが大切ではないかと考えています。今の自分は辛いときかもしれません。だから、皆さんもお互い将来のために頑張っていきましょう。



教育実習生から（社会）

実習校：高知県赤岡町吉川村中学校組合立赤岡中学校 文学部人文学科4年 濱田 幸伸

「もちろん高知でやるんだろ。」私の教育実習に関して友人の発言である。友人からこんな言葉を言われるほどに私は大学生活の中で頻繁に郷里へ帰っていた。平気で2ヶ月も部屋を空けることもしょっちゅうだった。そんな私が教育実習を高知でやることくらい友人の誰の目にも明らかであった。

教育実習。どれほどこの日が待ち遠しかったことだろう。ずっと目標とした「教員」という夢への第一歩を、私は友人の期待を裏切ることなく地元である高知県に戻り、赤岡町吉川村中学校組合立赤岡中学校で踏み出した。実は赤岡中学校は私の母校ではないのだが、私なりに色々考えた結果、地域活動などでかかわりがあった赤岡中学校で実習をさせてもらうこととなった。卒業生ではない私を好意的に受け入れてくれ、感謝の気持ちでいっぱいである。人間「感謝」の気持ちを忘れたら終わりだと私は思う。こういう状況であったが為に「迷惑をかけられない」という思いがかなりあったし、私なりに教育実習に対してかなり意気込みがあり、かなり気合いを入れて取り組んだ。

赤岡中学校は全校生徒108名（実習時点）という規模的には小さな学校で、一般的に言われる「田舎」の学校である。生徒は様々な悩みを抱えながらも、純朴で子どもらしく好奇心も非常に旺盛であった。

「出来るだけ生徒とかかわること」を実習の目標としていた私は、積極的に初日から生徒にたくさん話しかけ、名前を覚えようとし、溶け込もうと奮闘した。そんな私の思いを知ってか知らずか、それとも5年ぶりの実習生という状況からか、私が赤岡中学校の一員と

なるのにはそう時間はかからなかったと勝手に思っている。ここで、ポイントとなるのは実習前から部活動や地域活動などを通して知っている生徒がいたことであると思う。その生徒たちを中心として生徒全体に溶け込め

ていったような気がする。皆さんも実習前から出来る限り学校に足を運び、部活動などを通し、数名でも生徒とかかわりを持っておいではいかがだろうか。また、実習期間中は教材研究などやるのがいっぱいあっても、休み時間になると同時に職員室に帰るのではなく、休み時間に生徒と廊下や教室でなんでもないことを話しているだけでも、少しずつ生徒と打ち解けることが出来ると思う。確かに「教師」である（実習中はまぎれもなく教師である）以上、授業は大切にしなければいけない。しかし、授業の準備に忙しいからといって、生徒とのかかわりをおろそかにしてはならない。実習が終わった後に「授業の準備で忙しくて、生徒と全然接していません。」などとなってはとても虚しく、悲しい。

授業に関してはハッキリ言ってもかなり大変である。かなりの教材研究が必要であるし、板書計画や、準備物などやることは山積みだ。更に「どんな具合に授業を組み立てよう？」などの悩みも続出であった。しかし、やつつけ仕事にはいけない。私の場合、全く何の専門知識もない地理、歴史が担当だったので久々にあんなに勉強した。しかし、教材研究の中で新たな発見もたくさんあり、そんなに大きな苦痛ではなかった。が、



生徒に囲まれる濱田さん（中央）

時間的にはかなりキツイ部分があったので、前々から範囲が分かっている場合は早めに準備（教材研究）をしておく事が実習中に少しでも多く寝るコツ。また、担当の先生には迷惑をかけるけれど、悩んだ時は相談するのが、最速、最良の方法。やはり現場の先生は私たちにはない知識、経験を持っているので、どんどん学びましょう。小さい学校だったからかもしれないが、私は社会科以外の授業にもTTのような形で入っていて、空き時間はほとんどない状況だったが、生徒の様子も分かるし、他の教科の授業（先生）からも学ぶことは多く有意義だった。

おそらく、私は小規模校ならではの实習だったと思うので、事例は皆さんの参考にはならないかもしれないけれど、本当に充実したよい実習だった。生徒や先生方のおかげで有意義な実習が送れたこと、本当に感謝あるのみ。大事なことはしっかりと目的意識を持って実習に臨むこと。それは、「授業」でも「生徒とのかかわり」でも「部活動」でもよいけれど、自分が何をしたいのかを明確にして実習に取り組むことが、有意義で実りある、感動する実習につながると思う。悔いのない最高の実習となるよう祈ります。

教育実習生から（地理歴史）

実習校：埼玉県私立春日部共栄高等学校 経済学部経済学科4年 新井 馨

私 は6月1日から2週間、教育実習のため母校である春日部共栄高校にお世話になりました。私立高校ということもあり、先生方も在学していた頃とあまり変わっていなかったのも、わからないこと、疑問に思ったことなどを担当の先生やその他諸先生方に指導して頂くことができたという点でも恵まれた環境であると思われました。

「教師とはいったいどういうものであるか？」このことを教育実習に行く前に自分なりの考えをもっていなければならないと思うのですが、大学の授業では理論として学ぶことはあっても正直よく分からないというのが私の本音でした。しかし、「百聞は一見にしかず」の言葉どおり、実際に自分が目にし経験することで「なるほど」と思えることが多く、教育実習という短い間で学んだことを少しではありますが紹介したいと思います。

「教師とは？」について考える際に、私の担当教諭であった先生から教わった言葉であり、わが母校の教師に示されている1つの目標でもある『教師は五者になれ。五者とは、研究者・医者・役者・易者・芸者である。』という言葉がとても役立ったと思います。

教壇実習のために事前準備をしますが、自信を持って授業に臨むために、また、自分が話したことすべてにおいて責任をもつためにも、一つの事柄や言葉について、原因と結果だけでなく、そのことが与える影響やもとなる背景など「流れ」をしっかり押さえて理解する必要があり、研究者のように深くそして幅広く知識を吸収していかなければなりません。しかし、ここでの注意は、調べたことをすべて授業で話す必要はなく生



ゼミナール中です（左から4番目が新井さん）

徒に質問されたときにきちんと説明できるようにしておくことが大切なのであり、どう見きわめていくのかとても難しいところであると感じました。どこにポイントを置くか、何を伝えたいのかを自分なりに明確にしていないと、必要でないことで話を深く掘り下げてしまい、肝心なところが浅くなってしまいうという状態になりかねないからです。

また、生徒に伝わりやすい授業をするためには、教師の教えるための技術を磨いていくことも大切ですが、それだけでは、授業は教師からの一方的なもので終わってしまう恐れがあります。それを回避していくためには、普段から生徒との信頼関係を築いていくことが第一条件のように感じられました。

教師は授業のやり方も研究していかなければなりません。私の場合は、担当教科の世界史だけではなく、政治経済、日本史、地理、英語、数学、国語など幅広く先生方に事前をお願いをして授業を参観させていただきました。在学時のときとは違い実習生として授業に参加するため、授業に対する見

方の切り口、角度が変わり、自分の記憶にある授業とはまた違ってとても勉強になったと思います。授業参観については時間が許す限りできるだけ多く経験しておいたほうが、自分が行おうとする授業へのイメージが付きやすくなるので、これから教育実習に行く後輩の方へお勧めしたいと思います。

最後に、「人に伝えること」は何も教師に限ったことではありません。様々な人間と接しながら生活していく以上誰もがやっていることです。それゆえ、今まではただ頭で理解していたに過ぎないことが、実際の経験を通して学ぶことができる教育実習の経験をうまく活かせるよう自分の目で見、感じたことをおかれた環境の中で精一杯吸収していければ、とても有意義な教育実習を行えるのではないかと思います。教育実習は楽しいこと、辛いことなど様々なことが短い期間にドッと押し寄せてきて大変ではありますが、一生のいい経験や思い出になることは間違いありません。これから教育実習に行く後輩の皆さん、是非頑張ってください。

教育実習生から（国語）

実習校：秋田県立能代北高等学校 文学部国文学科4年 工藤 さやか

4 年前まで制服を着て、高校生として通学していた場所へ、今度は「教育実習生」と名を変えて「通勤」する2週間。蓋を開けてみなければわからない未知の時間への不安と、これから自分を待ち受ける様々な出会いに期待しながら私の教育実習が始まりました。

実習前半1週間は担当教員と相談した結果、ひたすら授業見学をしました。担当してくださっている先生の授業はもちろん、国語科に留まらず、英語や社会、生物なども見学に行き、その先生の授業の進め方、生徒との関わり方などたくさんの事例を元に、自分がどういうスタイルで授業をしようかと頭に入れながら1週間を過ごしました。今になって考えると、この授業見学が広範の教壇実習へ十分生かしかれたかどうか自信はありませんが、様々な先生方の50分間を生徒とは違う目で触れたことは、大きな発見や今の立場になって気付く先生方の工夫が感じられてとても良かったと思います。

後半1週間はいいよいよ教壇実習です。担当したのは「羅生門」と「矛盾」。授業開始日までに何度も何度も授業計画を立てて臨みまし

た。研究授業なども含めて、計8時間の教壇実習だったのですが、予期せぬ質問が出てきたり計画通りに終わらせようと思うあまり、発問を焦ってしまったり...と、反省点ばかりの8時間でした。最初は、授業を終えるたびに、上手くできなかった不甲斐なさで落ち込んだりもしましたが、担当の先生や他の先生方に「実習生には自分の授業に満足して帰ってもらったら困る。現役の教師でさえ授業の進め方には頭を悩ますのだから、むしろ今は多めに失敗していきなさい!」と頼もしい(?)励ましの言葉をかけていただき、それからは上手くやることよりも、自分らしさと教室の空気や生徒一人一人の反応を大事にしながら、進めていくことを心掛けるようにしました。そのお蔭で後半は反省点こそあったものの、リラックスして授業を楽しむことができました。

さて、実習生のすることは授業だけではなくありません。HR指導や行事の運営なども当然実習内容に含まれます。そしてその中で私が何より力を入れたのは、それらを活かして生徒とのコミュニケーションを持つことでした。幸運にも、

実習期間中に運動会があり、合唱コンクールも近いということで朝練に一緒に出たり放課後も教室に留まって、様々な相談に乗ったりしました。その他にも部活や体育の授業(!)にまで参加したりもしました。自分から生徒の輪の中に入ろうとすれば、生徒はそれに必ず応えてくれます。そして、そういう関わり合いの中で、生徒の個性を知ったり、教室では絶対に見せない姿を発見できたりするのです。実際に教職に就くとなかなかそういう時間の余裕がないのが現状のようですが、授業時間外や教室外でどれだけ生徒に接するかは、様々な面でプラスに働いてくることはまず間違いないと感じました。私の場合、多くの生徒とコミュニケーションを持った事が教壇実習に活かされました。授業計画の立案や準備、担当教員との打ち合わせ、実習日誌の記入など、やることは本当にたくさんあります。それでも、必ず多くの生徒と話してください。他愛のないことでも、その一瞬を、一言を生徒は待っています。生徒から見れば私たちは歳の近い分「先生だけど(学校の)先生よりは身近な存在」として心を開いてくれます。そしてまるで万華鏡のようにたくさんの話を、様々な色や形に変えながら教えてくれるのです。もちろん、こちらから働きかけることが大切です。限られた時間の中で、よりたくさんのものを吸収するために、自分の心と体のアンテナの感度を高めて、実習に臨むことが、実りある実習にする唯一無二の秘訣だと思います。

実習を終えた私の宝物は、実習日誌と出会った生徒たちです。みなさんも素敵な宝物を見つけてきてください。



黒板も素敵!! (前列右から2番目が工藤さん)

教育実習生から（英語）

実習校：東京都世田谷区立尾山台中学校 文学部英米文学科4年 三木 謙二郎

「どうもありがとうございました」これは僕が実習の最後に生徒に言った言葉です。（モットモ僕は号泣していて生徒は何を言っているのか分からなかったかもしれないけど）でも僕にとっては憧れの「金八先生」に一番近づけた瞬間でした。実習を終えて思うことは、大きな感動と無限大の感謝の気持ちです。

僕は中学校で実習を行いました。この学校で僕は、野球部のコーチや修学旅行の引率をした経験があり知っている生徒が多くいましたが、やはり実習の前日は緊張と期待でなかなか寝つけませんでした。初日の朝はとても心地良かったです。今日から2週間は「三木先生」と呼ばれることを思うと自然に笑みがこぼれてきました。

僕が担当した学年は一年生でした。言語教材はThis / Thatの肯定文と疑問文でした。授業は絵や実物を多く使いながら英語をできるだけ話しました。聴覚だけではなく視覚を使うことで生徒達は英語を理解します。例えば「apple」と音の意味が分からなくても実際にリンゴを見れば音と意味は一致しますよね。僕のカバンの中はいつもクロッキーブックと実物でパンパンでした。生徒も僕のカバンに興味を持ち「先生、今日は何を持ってるの？」「ウーンそれは、ヒミツ！授業までの楽しみだよ！」「3時間目が楽しみだね！」などのコント風のやりとりを通じ生徒達とのコミュニケーションは充実していききました。これから実習に行く方は教材を多く準備しておいたほうがいいと思います。いろいろな方向で生かせるのではないのでしょうか。

授業を実際にやってみて反省することが多くありました。指導の



野球部員たちと（中央が三木さん）

先生から頂いたアドバイスを2点書かせて頂きます。

1つ目には授業はできるだけ英語で進めることです。初めはこのスタイルに違和感がありましたが、最後の授業では30分ぐらいは英語で進めました。生徒達は英語を聴く姿勢を持ちそして教師のジェスチャーを見ながら話の内容を理解していました。教師が授業中積極的に英語を使うことで、実際の場面においても柔軟に対応できる態度の育成ができると同時に、授業を通じて「英語が理解できた」という充実感を持つ事ができます。皆さんも経験があるでしょう、英語が話せた時や英語を聴けた時に「自分は天才？」と思った時が一度はあると思います。これと同じ気持ちを教師が授業を通じて与えていくことが大切です。授業に楽しみを覚えることで新たな学習意欲も湧いてきますよね。

2つ目は授業で何をしたいのかを明確にすることです。生徒が授業を理解できなくなってしまうのは、何をすることが分からないからです。僕は実習の始めの頃は授業を進めることに精一杯で、何を

生徒にさせたいのかを明確にできませんでした。頭の中でやりたいことを整理して、簡単な言葉で伝えてあげてください。いろいろな活動を授業で行いますが、活動の意味を明確にすることで生徒は積極的に動けるのだと思います。

これから実習に行く人は期待と不安がたくさんあると思いますが、人生で一度しかできない貴重な体験です。何かひとつ自分に大切なモノを見つけてきて下さい。実習を終えて僕は「絶対に教師になる」という決意をしました。「三木先生」と呼ばれた2週間はとても充実していました。採用試験に絶対合格して、今度は本物の先生として輝き続けていきたいと思っています。

皆さんはどうして教職を取っているのですか？もう一度考えてみてください。何か熱いモノが沸き上がってきませんか？...自分の夢に一番近づける瞬間です。理想の自分を描き子ども達の心を照らすランプであって欲しいと願っています。

教育実習生から（商業）

実習校：三重県立宇治山田商業高等学校 商学部商学科4年 松尾 真由美

実 習前に「実習生は、寝る時間がない」、「毎年逃げ出す実習生がいるほど大変！」等々、教育実習に関してさまざまな噂を聞いていました。だから、実はものすごく不安と憂鬱な気持ちで実習初日を迎えました。

5月28日から波乱万丈の教育実習が始まりました。実習初日は、朝8時前の集合でした。その日はまず、校長室で顔合わせを行いました。そして、初めて職員打ち合わせに参加。そこでは、実習生一人一人が挨拶を行いました。緊張のため、とても小さく、震えた声で挨拶したことを今でも明確に覚えています。人前で話すことは慣れている、とたかをくくっていたのですがまったくもって打ち破られました。こんなことで実習をやっているのか、とますます自分に自信がなくなる出来事でした。

初日から授業見学が始まりました。自分が授業を受けていた時とは違った視点で見学することができて、とても興味深かったです。やはりおもしろい授業は生徒も一生懸命聞かし、また逆につまらない授業は寝てしまいます。それは仕方ないな、とつくづく実感しました。しかし一言でおもしろい授業、生徒の興味を引く授業といっても、そう簡単に展開できるものではありません。教師の力というか、本当に技と経験のいる職業であるということを学習しました。ただそれは、私が実習を経験したから気付けたことで、もしこのような経験がなかったら決して気付くことはなかったでしょう。実習を通して、私の教師に対するイメ

ージは大きく変わりました。それだけでも実習を行った甲斐があったと思います。

私を含めて実習生は8名いました。私は、商業科の中でも情報概論という授業を担当させていただきました。この授業は展開数が少ないため、自動的に私の授業も限られたものとなりました。他の実習生の方々よりはるかに少ない授業数で、初めはラッキーだと思っていました。なぜなら1つの授業



実習生たちと（右から3番目が松尾さん）

に費やす準備や研究は、ものすごくエネルギーのいるものだからです。しかし、周りの実習生が忙しそうにしているのに、自分はいったい何をしているのだろう、何をしにきたのだろうと疑問に思うようになりました。やはり、せっかく実習にきたのだから、少々大変な思いをした方がよいと思います。その分返ってくるものは大きいものだから。

実習に行く前私は周りの友人たちから、「教壇から顔出るの?」とか「黒板に字は書けるのか?」と数々のいやみを言われていました。私は、身長が149センチと小柄なため、皆にからかわれていたのです。そんな私も何とか教壇から顔を出すことができ、板書もきちん

とできました。授業数は4回とても少なかったですが、何ものにも変えられない貴重な経験となりました。そして、自分の経験からはっきりわかったことは、中途半端な気持ちで実習に挑んではいけないということです。中途半端な気持ちでいるから、些細なことで嫌気がさして逃げ出してしまうのでしょうか。また、そのせいで周りの先生方や生徒に多大な迷惑がかかってしまいます。やるならやるで、気合いを入れて取り組むべきだと思います。

実習中、一度だけトラブルが発生しました。私たち実習生は、毎日比較的遅くまで残っていたので、自分たちの仕事が終わると指導教員にだけ挨拶をしてそのまま帰っていました。それを他の先生に指摘されたのです。きちんと職員室に寄って、他の先生方にも挨拶をしてから帰宅するように。その一件があってから私たちは、きちんと挨拶をしてから帰るようになりました。今考えてみれば、当たり前のことだと思ってしまう。最近では、目上の人に対する礼儀や挨拶など出来ない人が多いですが、そういったちょっとした気遣い、心配りも忘れてはならないと実感させられました。

2週間の実習を良くするのも悪くするのも結局は、自分次第だと思います。前向きに頑張るのみです。そして、常に付きまとう緊張感と戦えばあとはばら色です。

司書・司書教諭課程

Index

- 1 「情報検索」に関するカリキュラムの充実をめざして 28
—— 専修大学法学部兼任講師 田中 功
- 2 卒業生から 30
- 3 図書館実習を終えて 31

「情報検索」に関するカリキュラムの充実をめざして

法学部 兼任講師 田中 功

1. 本学における「情報検索」のカリキュラム

司書資格科目の改定により1997年度から「情報検索演習」の科目が新設された。本学ではそれより以前に「情報検索」という科目が開講されており、時代の先取りをしていた感がある。また現在でも、他大学の情報検索に関する講座は半期の「情報検索演習」のみの開講がほとんどであるが、本学では、「情報検索」と「情報検索演習」の半期2科目がそれぞれ必修科目として用意されている。これは図書館の電子化が進行しているこの時代における「情報検索」関連のカリキュラムの充実という点において本学の科目配当は充分評価されるのではないかなと思われる。さらに演習にともなうコンピュータ室も新しい機器が整備されており、授業を担当するものにとってあまり不自由さを感じることはない環境であることはありがたいことである。

2. 授業の内容

授業は次のような内容で実施している。

情報検索（前期）

この授業では情報検索の基本的な知識を講義し、後期の演習につなげていく。

- 1) 情報検索の歴史と意義
- 2) 情報の種類と加工
- 3) 情報検索とデータベース
- 4) データベースの作成プロセス
- 5) 検索語と索引語
- 6) 件名標目表とシソーラス
- 7) 情報検索の論理
- 8) 情報検索システム

情報検索演習（後期）

この演習ではデータベースなどのデジタル情報にアクセスし、検索の手法や仕組みを理解させる。

- 1) OPACの検索
- 2) 出版情報の検索
- 3) 人物情報の検索
- 4) 雑誌記事情報の検索
- 5) 新聞記事情報の検索
- 6) 図書情報の検索
- 7) データベースの作成

3. 学生の反応

最近ではコンピュータを操作することに対して抵抗を感じる学生はほとんどいない。むしろコンピュータに関してかなりの実力の持ち主であることがうかがえる学生が増えてきており、10数年前の授業で「エンターキーってどれですか」「スペースキーはどこですか」といった質問が多かったことを思うと隔世の感がする。また授業におけるコンピュータ操作に関してはチューデントアシスタントの方にお手伝いをお願いしており、複雑な操作もほとんど対処してもらい大いに助かっている。また逆にこちらが教えてもらうこともたびたびあり複雑な心境でもある。

授業に対する学生の反応については、今年7月「情報検索」受講後に感想を書いてもらったが、次のような点をあげている。

- ・司書課程の学生だけでなく学生全員がこの授業をとるべきだと思います。
- ・必要な情報を効率よく検索するためのさまざまな方法を学びました。キーワードを用い

て検索式をつくり、論理演算をすることやシソーラスなど知識が検索のために必要だと思いました。

- ・私は大学図書館のOPACも使いこなせない状態でしたが、授業を受けて検索の仕方や効率の良い探し方ができるようになりました。
- ・情報検索のおもしろさを感じました。自分は資料や情報の探し方について知らないことだらけで驚きました。これからの時代はこのような知識を誰もが必要とされると思います。したがって、この授業を司書課程だけでなく一般学生に開放してもいいのではないかなと思いました。
- ・レポートや卒論を書くときに参考文献が探しやすくなりました。

4. 「情報検索演習」の教材

情報検索演習の授業で一番頭を悩ますところは安価で使える演習用のソフトが少ないという点である。CD-ROMのデータベースも増えてきてはいるが、一枚あたりの単価が高額であり、またCD-ROMサーバーによるネットワーク使用も予算面では厳しいところである。また昨今ではインターネットをとおして使用できる無料のデータベースもやはり増えているが、教室で全員が同時にアクセスするとなると極度に反応が遅かったりする。このような制約された状況で、今後いかによりソフトを見つけるか、あるいは作成するかを検討していかなければならないと思っている。

5. 図書館の電子化と「情報検索」の授業

コンピュータ技術とネットワークの進展、普及によって図書館にはインターネット時代に適合した電子化の波がおしよせている。

図書館の電子化が進むにつれて、利用者にとって情報にアクセスする方法が、従来の印刷メディアとは根本的に変わりつつあるということになる。その結果としてネットワークへのアクセスができる、できないが、情報を探せる、探せないにつながり、それによって利用者自身が求める情報を主体的に収集、活

用するための「情報力」ともいうべき格差が拡大する傾向にあるという問題である。このような状況に対して図書館が取り組むべき電子化における次の課題はこの格差をなくすこと。つまり図書館の利用者における「デジタルデバイド」の解消である。このため図書館はあらゆる努力でこの問題に向けて対処していかなければならない。

それには情報リテラシーの強化、つまりネットワーク上の情報を検索し活用する能力を利用者に習得させることが必要とされる。図書館の電子化にともなって、そのようなスキルを備え

た利用者を育成するために研修などのプログラムを充実させていくことが、これからの図書館職員の重要な役割の一つに加わることは間違いない。

「情報検索」「情報検索演習」の授業はまさにこのような図書館の新しい波に柔軟に対処できる図書館職員をめざすものである。教える側もこれらの点をふまえて、社会の変革にとりのこされることなく、常に新しい知識・技能を取り入れ、これから社会に出る学生がそれらを十分に修得できるよう努力していきたいと思う。



卒業生から「図書館司書であり続けること」

宮城県図書館 主任主査 安川 潔（昭和57年 法学部法律学科卒業）

1 1994年6月末、市長室に呼ばれ当時の市長からこう言い渡された。「小さな町なのでもはや専門職を養っていく力がない。安川君については新しく図書館を作る自治体を県立図書館長に探してもらうとして、それまでは環境課の仕事をしてもらう」と。

ここから話を始める前に、それまでの略歴を記す。最初の就職は埼玉県入間市立図書館（1983.4～1988.4）である。新館建設に携わった。28歳の私が最年長司書でいい経験にはなったが、より完成度の高い新館建設を目指し九州へ行くことにした。福岡県筑紫野市民図書館（1988.5～1994.6）が二番目である。新市長の選挙公約の一つである図書館建設計画を推進しようとしていた筑紫野市に対し、当時の福岡県立図書館長が「経験のある専門職を採用してその任に当たらせよ」として私を斡旋した。県立館長とは私が地元出身（福岡市）ということで何かの全国大会で名刺交換してから面識が出来ていた。「割愛」という人事記録と年金受給資格を継続扱いとする公務員の身分変更制度による扱いで三自治体間を転職した。よって入間、筑紫野両市からの退職金支給はない。

新図書館は開館後、奉仕人口6

～8万人台の自治体図書館中、全国第4位の貸出実績を出した。しかしこの図書館は、館長・係長（有資格者）そして私を除く司書は、地元の民間企業との業務委託契約による派遣司書（全員有資格者）だった。この経営方式は、図書館論としての是非の前に成果を問われる。その成果とは貸出冊数で、コストに見合う成果を出して初めて正当性を説けるのだから、当然働く者に高負荷をかける。そのため当時の私は、日曜日の夜も残業し翌日はクルマの運転も出来ないくらい疲れていたのを覚えている。

環境課へ異動した。図書館では技術職で職名「司書」だったので環境課では技術職で職名「技師」となり、し尿収集許可、コミュニティプラント（団地の大型合併浄化槽）の料金徴収、処理場機器や道路下管路等の補修工事を一人で担当することになった。最初のころは漏水現場に行ってもどうしていいのか分からずオロオロしていた。全職員が同じく事にあたる図書館と、職務分掌縦割りの本庁の仕事方式の違いに戸惑った。自分の仕事は前任者の残した書類を見て判断する、という役所標準方式にはなじめず、課長から起案書類の不備指摘の度に決裁板もろとも投げ返された。当然仕事は不出来

の出来そうな小規模自治体に話を持ち込んだ。覚えているだけでも五つはある。中には町主催の図書館講演会の講師で招聘されたのもあったが結局、音信不通となってしまった。それでも新館開館時だけ専門職を使って華々しい成果を出し、後は労働単価の安い者でコストダウンするという筑紫野市に残るつもりはなかった。プロとしての矜持を保つこと、が転職の理由である。

長期戦を覚悟した。図書館界に戻った時、生かせることは何かを考えてみた。実は本庁でも税務、福祉一筋という専門職化した人たちは文書法制、契約、支払事務に疎い。逆に今それらを身につければ係長職以上でどこでも通用する。官公庁契約の基本は工事契約だからこれをマスターすべく契約主管課に日参した。だんだん力量がついてくるのが自分でも分かるようになった。最後は、課内でベテランの域まで達した。

そして機会は突然訪れた。1998年8月、宮城県教育庁が図書館経験者を公募した。宮城県とは縁はなかったが、この試験に賭けるしかない。16名応募して2名採用された。市当局に退職の意を伝えても慰留はなく事務的に手続きは進み1999年4月より今に至る。

今の職責には当時の行政経験が一番役に立っている。勝因は運だけではなく、機会が来るまでは環境課の仕事を明日につなぐためとして投げ出さなかったことにもあると思う。このことを心ならずも館外異動中の本学出身司書に伝えたい。在校生へは、今学んでいるのは職人技ではなく図書館の理念であり、司書にとって図書館とは常に理念や魂が試される場所であることを伝えたい。

で大卒採用後3年目の職員より注意される始末だった。こんなことは2年近くも続いた。

一方転職計画も頓挫の連続だった。複数の仲介者を立てて図書館



図書館実習を終えて 「鎌倉市中央図書館での実習と児童サービス」

実習館：鎌倉市中央図書館 文学部人文学科4年 松瀬 智子

私が実習を行ったのは鎌倉市中央図書館。16万人都市で郷土色の強い鎌倉にある5つの図書館のうち、中央館であり地域館でもある図書館です。蔵書数は約18万7千点。そのうち児童書は1万6千点でした。児童フロアは1階にあり、じゅうたんコーナーを含め143m²。20席ほどの机と椅子があります。鎌倉市では各館一人ずつで児童サービスの会を作り、そこが中心となって児童サービスのことを決めているそうです。普段の貸出・レファレンスの他、お話会などのイベントも行っています。

お話会は月に一度、第2木曜日に行っています。これは5・6歳から小学校3年生までが対象となっています。参加人数は一回に10人弱。中央図書館は鎌倉の中心にあり住民の年齢層も高いので、あまり人数は多くないようです。でも腰越などの地区館になると、若い世帯も多く部屋いっぱい子どもが集まるとのことでした。また普通のお話会とは別に、2ヶ月に一度行われているのがおひざにだっこのお話会。毎月どこかの館で行われるようになっていきます。こちらの対象は0歳から3歳までで、子供のみ参加のお話会と違いお父さんお母さんの膝に乗って一緒に参加してもらいます。申込み制になっていますが、お知らせの出た3日後には定員10組が一杯になってしまうほどの盛況ぶりだそうです。年齢の低い子供に合わせ、短く繰り返しの多いものや指遊びなどを多く取り入れているということでした。

お話会の他にも、図書館探検・見学・体験を行っています。図書館見学は学校が実施している調べ学習に対応し、体験では実際に子供達にカウンター業務や書架整理を行ってもらい、より深く図書館を知ってもらおうというもの。それとは逆に

こちらから出向くものが、学校訪問です。HRの一時間をもらってお話会やブックトークを行ったりします。

あと本のPRとして、本のリストを作り配布しています。0～3歳用のものと4歳～小学校低学年のものと2種類あり、学校その他、保健所など目に付きやすい所に配布しているそうです。

実際にお話会を経験することも出来ました。9日の木曜日、14：30からのお話会に参加し、絵本を読んだのです。私は『ねずみさんのながいパン』を読むことになりました。場所はじゅうたんコーナー。箱を並べて用意をし、いよいよお話会が始まりました。最初に読んだのは『すてきな三人組』。50cmはあるかどうかという特大本なので、2人がかりでめくりました。やっぱり大きい本は迫力が違います。次に私が読みました。授業でやったことはあっても、実際に子供の前で読み聞かせをするのは初めてだったので、すごく緊張しました。でもゆっくりと子供達の顔を見ながら読んでみると、だんだんと落ち着いてきてとちらずに読むことができました。そのあと『世界で一番りこうないぬ』を読み、『絵描き歌』でひまわりや怪獣を描いてお話会は終わりました。

子供にもいろんなタイプの子がいました。慣れててどんどん話しかけてくる子、ただじっと聞いている子、本当にいろんな子がいるなぁと思いました。年齢も2歳から小学校1年生までいたので、「その本知ってる！」という子もいるし、難しいのか話の途中で飽きてしまったような子もいました。それで本も難しいものから簡単なものまで幅広く用意しなければなら

ないのだと実感しました。ただ、お話会の予告を全然していなかったでその場にいた子供達しか集まりませんでした。朝からじゅうたんコーナーで告知をしておくと、もっとたくさんの子供達が来てくれたのではないかと思います。

夏休み期間中ということで、どの時間帯もたくさんの子供が来館していました。特に小中学生の子は、夏休みの宿題のために訪れているようでした。1階カウンターにいた時に「オシロイバナについての本ってありますか？」という質問をされ、児童フロアで本を探したことがありました。しかしあまり詳しく載っているものがなく、結局2階のレファレンス担当の職員にお願いしてしまいました。折角受けたのだから、最後まできちんと対応できるだけの力があつたらな、と悔やまれます。

実習を行ったことで、授業で聞いていただけのことを実際に実感することができました。児童サービスだけでなく、図書館サービスは生のもので。皆に同じようにサービスをするのではなく、一人一人にあったサービスを行うことが大切だと思います。そして実習を行って、利用者の要望を聞いてそれに応えて...そうしてサービスの向上がなされていくのだと感じました。10日間という短い間でしたが、とても貴重な体験をすることができたと思います。



落ちついてお話を読む松瀬さん

図書館実習を終えて「カウンター業務」

実習館：湯河原町立図書館 文学部人文学科4年 伊藤 奈々

8月2日から15日までの12日間、私は湯河原町立図書館で実習を行いました。

カウンターは玄関を入ってすぐ右手、1階に1つだけあり、大抵2人（バイト中心）であっていました。カウンターの仕事は「貸出返却処理」「配架作業」「レファレンス」「リクエスト受付」「利用者登録受付」などです。私はほぼ毎日カウンターにつき、特に午前中のカウンターに多くあたりました。

貸出返却処理

カウンターの主な仕事は貸出と返却の手続きを行うことです。9:30の開館時には多少返却処理に追われます。返却の際には多少注意点があります。ビデオやCDが返却されたら、ケースと中身が間違っていないか、巻戻してあるかを調べ、手違いがあった場合にはコンピュータで返却者を調べ、電話か口頭で連絡をします。巻戻し忘れが複数ある場合には「巻戻して返却して下さい」というコメントをコンピュータの利用者詳細につけます。すると、次にその利用者が貸出をする際にコメントが出て、利用者に注意を促すことができる仕組みです。また「予約の入ってるもの」「BM資料」「借受資料」は返却のバーコードを読んだ瞬間にコメントと音が出、これらは別の棚に保管することになります。返却時に破損しているものは修繕するか、ひどいものは廃棄になります。

配架作業

返却処理した資料は、即、配架します。配架はカウンターに利用者が少ない時を見計らって、身体が空いたらすばやく行きます。私は実習の初期、書架配置を憶えていないために配架に時間がかかり、カウンターが1人では手一杯になって利用者を待たせてしまいました。書架配置を把握すると共に、時々カウンターの

込み具合をチェックし、行動することが必要だと学びました。

レファレンス

カウンターにいると、利用者から色々な質問を受けます。たとえば「駐車場はありますか」「何冊借りられますか」「今自分が借りてい

る本を知りたい」「自習室はありますか」「登呂遺跡の歴史を知りたい」「住宅の本はどこにありますか」などです。

図書館の施設・設備の質問や、貸出に関する基本的な質問は多数ありました。利用者は図書館の詳細を把握してるわけではなく、自分の利用法以外の情報に関しては意外に知らないことが多いようです。

簡単な質問や基本的事項の確認は即座に対応できますが、難しいレファレンスは事務室にいる職員に内線で連絡をし、お願いすることになっていました。その際、質問者の年齢（小学校何年生か）などによって、提供する資料の程度（一般書か児童書か）や提供方法（大体の書架配置を教える、本のページを開いて教えるなど）を考え、質問者の求める情報により合ったものを提供することとなります。

リクエスト受付

求める本が貸出中であった場合には、利用者に予約していただく方法を取ります。予約は「リクエストカード」という緑の縦長の紙に「氏名」「電話番号」「利用者カードの番号」「欲しい本（ビデオ・CD）のタイトル」「著者」などを記入してもらいます。紙を受け取ったらコンピュータに予約を入力し、現在貸出している利用者の氏名や返却予定日を書き



端末に向かう伊藤さん

込みます。これがリクエスト受付です。

<カウンター業務からの発見>

カウンターの仕事などから、図書館はコンピュータ処理が多いと分かりました。貸出返却処理、資料検索、予約受付、利用者登録とすべてコンピュータで、大変便利で、効率が良いと感じました。

また、図書館は「地域の出会いの場」だと感じました。カウンター業務では挨拶が欠かせません。こちらが挨拶や貸出処理をした際に、「ありがとうございます」と微笑んでくださる利用者や実習生の私を励ましてくださった常連さん、また仲良くなった子どもたちもいて、図書館には「触れ合い」があり、それがすごく良い形になっていると感じました。しかし利用者もさまざまで、酔っ払った人が「利用者カードを持っているから椅子で寝かせてくれ」とからんできたり、図書館にそぐわない大声で傍若無人に振舞う人もいました。聞くと、浮浪者も来るそうで、そのような図書館を館長は「人生の縮図」と表現していました。

短い実習期間でしたが、利用者の立場とは異なる図書館の一面を見ることができ、実習は良い経験となりました。

学芸員課程

Index

1	作る陶芸	34
	——専修大学法学部非常勤講師 水上 和則	
2	卒業生から	36
3	博物館実習を終えて	37

【作る陶芸】

法学部 非常勤講師 水上 和則

(一)

中国では、「三大苦」といわれる辛い労働の筆頭に製陶業（窯業）をあげるといふ。鍛冶屋がこれに次ぎ、その次の三番目は失念した。

第一にあげられる陶器を作る仕事は、はじめに原料の粘土を山の坑道から掘り出すことから始まる。掘り出した原土を一旦完全乾燥させて、槌で細かく粉碎する。それをメッシュで篩ったり水簸をしたりして、材料の粘土にする。水簸とは水槽の中に原料の土を入れて攪拌し、比重のちがいによって微細な粘土のみを選択する方法である。土ができあがったら轆轤（ろくろ）で水引き、成型し乾燥をまって脚部である高台（こうだい）の削り出しを行なう。この後、摂氏700～800度で素焼（すやき）のための窯入れと窯出しをして、でき上がった素焼の素地（きじ）に絵付けを施し釉薬を掛けることが行なわれる。その後、摂氏1250～1300度の本焼（ほんやき）となる。本焼は、江戸時代を通じて大きな登り窯が用いられ、それは一週間の徹夜が続く重労働であった。昭和初期には石炭窯も用いられるようになった。昭和30年代の始め頃には小型の窯が普及し、焼成時間も短縮されて一昼夜の徹夜仕事となった。

これだけの仕事を、普通注文を受けてから約一ヶ月でこなしていく。それぞれの行程が熟練を要する職人仕事である。窖の中に潜り、粉にまみれ、泥にまみれて、徹夜をして出来上がってくる。

愛知県常滑市にある私の実家は、代々焼きものをつくる仕事をしてきた。私の祖父の時代、陽のある明るい間は山で採掘した土を水簸していたように思う。それを足で踏み、土練りをして材料の粘土が



できあがる。とくに、冬の水仕事は辛い。その土をより粘りけを増すように室（むろ）で寝かして、轆轤（ろくろ）成型に用いる。確かに安易で楽な仕事ではあるまい。

(二)

世界の陶器産業のトップランナーは、中国である。

陶器の製造は、それぞれの時代に最新のハイテク産業として発展してきた。唐代には高級美術品であったが、それが宋代に入ると高級美術品から、実用的な工芸美術品となった。さらに一般大衆にとっては、飲食器として実用器となった。その結果、大量生産によるコストダウンのための競争は、中国宋代にすでに過激な状態にあったと思われる。中国での古窯址調査からみて、北宋代晩期の生産状況がそれまでとは大きく様変わりすることでも明らかだ。明代十五世紀の始め、中国は国際的な販路拡大に乗り出す。こうして、およそ貿易船の行くところ世界の隅々まで中国の陶器がゆきわたるようになるのである。

現代では、窯業の工業化があまりに進んだ。形を作る段階での粘土は、すでに水分を含むべとべとした印象の粘土ではない。乾燥した粘土の粉末に霧状に水分を吹き

掛け、プラスチック用金型プレスのような成型が行なわれる。次々に生産されるティーカップが、ベルトコンベアを流れて行く姿を想像してもらいたい。乾燥などする必要がないのでそのまま窯に入り、乾燥がないので変形もしない。瞬く間に万単位の製品が生まれてくる。

工業化に対抗するかのように、無味乾燥になった陶器を再び美術品として蘇らせようと、工芸作家が一品一品手作りの作品を作り始めるようになる。それと同時に、陶芸教室が生まれ、趣味としての素人陶芸が始まる。

(三)

2001年度の「総合科目Ⅱ」では、「やきものを作る」というテーマで実習を含む授業を行なった。大変な人気で当初の履修予想人数の四十五名をはるかに越える百四十五名で授業が始まった。授業の後半では実際に実習を行なう。予想人数を越えたために学内にある陶芸用道具の数量・設備が間に合わず、急遽都内の陶芸教室を借りての制作実習となった。その後、私の山梨県小淵沢町にある薪木窯を利用した焼成実習を行なう。

大部分の学生にとって、陶芸作家の話を聞いたりその作家自身の

作品をみるのは初めてであった。無論、粘土を捏ねたり、薪木の窯を焚くことも初めてである。高校時代とかく「美術」「音楽」は息抜きの時間帯で、教育として機能していなかったせいか“焼物作って単位がもらえれば...”的學生がいるのは当然であった。しかし実習室では、いつもの授業と異なる時間が流れて行く。自分の作りたいものを形にするその解説をしている時に、真剣に聞かなければ形にならないことは、學生自身が良く知っていた。困難に会い問題を解決したくても、いつもの隣人では解決不可能であることも分っていた。學生の間で、雑談とは違う会話が交わされているのが分る。

三大苦の職業の一つである陶芸が、このように人気が高いというのは、困難な人力仕事の大部分が機械によって肩代わりしていった結果ということがある。窯業の機械化を行なった日本の関係メーカーは、その一方で人気の高いこの趣味の機械化にも参入し、徹底した調査によって誰でもやさしく扱える方向で窯業機器の改良を重ねたのである。例えば焼成窯の開発では、焼成中の素地に傷が発生しないように、時間辺り摂氏何度の

温度上昇まで可能なのか、市販の粘土を用いて幾度の実験を行なう。その結果、家庭用電源(100V)で使用可能な小型電気炉を焼成時間8時間で実現した。しかも徹夜での窯焚き作業の必要などない、自動焼成装置付きなのである。なかでも電動轆轤の開発は、それまでの電気を動力とする轆轤の姿を一変した。それまでは大型電動モーターを起動し、そこからベルト掛けで数台の轆轤へ動力伝達をしていた。横一列並びで、一斉に轆轤面(ここを鏡と呼ぶ)が回り出す構造である。量産工場ならともかく、これでは美術品制作とはほど遠い。それが、京都のあるメーカーによる、各轆轤に一台のモーターを積んだ無段階変速機付きの電動轆轤の開発である。これにより、各人が個別に電源スイッチを入れて作業を始めることができ、好きな時に好きなスピードで轆轤水引きが可能となった。この電動轆轤は、日本・アメリカを中心に世界的規模で普及していった。今から十七年前、私は当時留学中の中国北京にこの電動轆轤を持込んだ。この時に持込んだ轆轤が細かく分解・調査され、政府軽工業部によって中国製初の電動轆轤とし

て製品化されたことを知っている。

(四)

我が国も本格的な高齢化社会に突入しようとしている。これから五十年間、お年寄りの人口は増え続けるという。退職後のゆとりの時間を、生涯学習という形で充実して過ごしてもらおうとしているが、そのなかで、陶芸を楽しみにしている人達が大変多い。生涯学習センターなどの教育カリキュラムの中で、その人気はだんぜん一位なのである。ある生涯学習センターでは、作品焼成用の窯の予約は半年先、などという話も聞く。

それほどの人気の根源に、土と水、火といった原初的な自然そのものと触れ合いながら、実用的な器を作る楽しみがあるということがあろう。確かに火を見て興奮を示さない人は少ない。私の工房の薪木窯の焼成の時でも、或いは元、消防士であったという人を除き、殆どの方は窯焚きの火に興奮し薪木をどんどんくべてしまう。これには閉口するが、これが人気を支える力なのである。陶芸の重労働部分が、老人子供にも簡単に扱える機械により容易になった。それと同時に陶芸教室での「作る陶芸」の人気が高まった。今後は人の、火を見て興奮をし泥おもちゃを楽しむそういった原初部分を、機械の中に如何に生のかたちで残すことができるかが課題となろう。

今年陶芸初体験をした学生たちが、これをきっかけによる深く「陶芸」に興味をもち、学芸員資格の取得と共に将来は生涯学習組織のなかで活躍してゆく。私は、そんなことがあったらいいと思っている。人々の間で、手を動かして物を作ることが増々盛んになることを願っている。



学芸員として

埼玉県さいたま市教育委員会浦和くらしの博物館民家園学芸員 榎本 秀之（平成2年 文学部人文学科卒業）

学

芸員課程を修めたからといって、わたしが学芸員？として仕事をしていることをいぶかしく思う人はたくさんいるはず。一番あやしいと思っている人は博物



博物館講座『紙すき』

館実習の講義を担当した亀井先生ではないでしょうか。「なんで彼が学芸員として働いてるんだ」と信じられない表情をしている先生が目に見えます。ご心配なく…。さいたま市教育委員会からの辞令に『学芸員を命ずる』とありますので！

学芸員といっても勤務をしている博物館（科学館・植物園・水族館・動物園・美術館・文学館・文書館…）の性質や成り立ち、地域の特性、設立形態、研究目的など、さまざまな要因によって仕事の内容は大きく異なります。ここでわたしが書き述べることは「さいたま市教育委員会の仕事をとおして学んだこと」という限定的なものになります。

わたしのような市区町村立の博物館の場合、学芸員は学芸業務以外のことに多くの時間を費やしているようです。研究調査、論文作成、講座・展示（常設展・企画展・特別展）資料収集・保存・管理、刊行物への執筆、学校との共同研究・事業、博物館協議会業務、博物館実習のほかに、予算編成、議会对応、庁舎（施設）管理、監査、決算など。ときには他の部課

の応援要員として仕事をすることもありますし、情報公開、住民参画型地方自治という流れのなかで、「市民とともに博物館の意思決定を行う」という時代の中にあります。

学芸員としてもっていったほうがよいもの。それはやはり『心・技・体』でしょうか。

『体』精神的な体力と健康です。遺跡担当は猛暑の太陽と極寒の大地にとことんつきあいます。これは経験した者でないと。“暑さその2”として

夏の一泊旧家の蔵の中での資料調査は高校球児の甲子園の世界です。また、調査・研究のテーマによっては数年がかりで結論までたどりつく長期のものもあります。数年にわたり研究・調査活動ができるということは学芸員にとって至福なことですが、頭脳の体力はFIFAワールド杯の予選を勝ち抜くほどに消耗します。健康管理に心がける健康づくりに励むのも学芸員です…ね。

『技』。資料の取扱を見ればその学芸員の力量がわかります。学芸員に資料の梱包をさせてみましょう。綿手袋はしていますか？資料を不安定なところに置いていませんか？破損・汚損部分を記録しながら梱包していますか？まだ色々ありますが、たいいていの資料の場合旧所有者があり、博物館に資料がくる日まで大事にしていたものですし、博物館資料というものは学芸員個人のものではなくて市民の共有財産なのです。

「学芸員資格者は即戦力」というほど博物館はあまいところではありま

せん。むしろ、「貴重な市民の共有財産を扱っているのだから簡単にできる仕事ではない」と考え、大学で学んだ基礎と職場の先輩学芸員からの指導を併せて成長すべきなのです。わたしの場合大学時代に戸田市立郷土博物館でアルバイトをしていた経験があり、基礎的な資料の取扱は身につけていたはずでしたが…。学芸員課程のみなさん、授業で学んだ資料の取扱は世界標準と考えてよさそうなのでしっかり覚えておきましょう。

『心』について。博物館の学芸員の仕事はブレインストーミングと同じように否定することではなく、自由な発想から創りあげていく楽しさがあります。ものの見方は十人十色です。学芸員は十人十色の心にふれることができる数少ない仕事です。学芸員としてたくさんのグループにさいたま市の歴史や地理、文化財、自然環境について話す機会がありますが、小学生とお年寄り、男の人と女の人、日本人と外国人など、人それぞれが角度の違う視線で『わがまち』を見つめているのがわかります。学芸員という職種は専門職でありながら市民の方からの情報は『市役所一広い』のです。こんな情報を“楽しむ力”のある『豊かな心』の持ち主は学芸員になった方がいいと思うな。



博物館講座『十日夜のわらでっぽう教室』

博物館実習を終えて

実習館：紙の博物館 文学部国文学科3年 大谷 香織

私が博物館実習をさせて頂いた「財団法人紙の博物館」は、日本の洋紙発祥の地とされる北区王子にあり、私達の生活に欠かすことのできない紙を総合的に学習できる博物館です。9日間の実習では、紙の性質・製造工程・紙製品など紙そのものについての講義から、収集資料の受入・取り扱い、収蔵庫内整理作業、博物館が来館者との交流を直接もてる「紙すき教室」の補助まで多種多様な経験をさせて頂き、学芸員という仕事の幅の広さ、神経の細やかさに圧倒される毎日でした。

特に収集資料の受入・整理は、その後の展示や研究の基礎となるため、分類・保存方法・保存場所など常に気を配り、考えながらの作業で、地道ながらとても重要な仕事であるということ、改めて実感しました。収集資料は後世に残してい

くものですが、50年後・100年後に資料を扱う人達が、現在の社会・文化では常識と考えられていることを知っているとは限りません。そのため、現在ではわかりきった事とされている事も、どういう時に使われたこういった資料なのか、どのような価値があるのかなども記録しなければならないことや、資料の曖昧な箇所、例えば千代紙などの模様は個人の判断で断定してしまっただけの後の研究に偏見を与えてしまう可能性があり危険であるということなど先の事まで考えて受入・整理をしなければならないということを知りました。

また紙の博物館には図書館もあり、博物館実習で図書の仕事にも触れることができとても貴重な経験だったと思います。主に紙に関する図書が収蔵されているのですが、世界的な分類方法がある図書と、資料の多様さによりそのような分類基準を作ることが難しい博物館の収集資料との違いなど大変参考になりました。

実習の中で最も印象に残ったのは、毎週日曜日に行われている

その点、紙の博物館では、毎週の紙すき教室に加え、より紙に興味をもってもらおうと様々な講習会が開かれています。また、来館者全員というわけにはいきませんが、見学中に職員の方が丁寧に紙について説明して下さいます。紙について話されているとき、職員の方々が生き生きとされていたことがとても印象的で、紙の博物館を支えているのは何よりも職員の方々の熱意であると感じました。

このような熱意があるからこそ、神経を使う受入作業や、展示、講習会の準備など様々な仕事が必要なのだと思います。同時に紙についての説明を受けてはじめて知る事実も多くこんなに身近にあるものなのに自分の勉強不足にも気づかされました。

また、大学との連絡の不備、及び

確認を怠ったため初日に遅刻をしてしまい多くの方にご迷惑をおかけしたことが今回の実習で一番の反省点だったと思います。重要事項は何度でも確認すべきであるということを痛感し、これを含めて紙の博物館での実習を将来に生かしたいと思います。

そして博物館実習を経験したことで、博物館というものは、作り手だけでなく見る側が興味を持って理解することで初めてその役割が果たせるのだと実感しました。見る側の意識も大切であるということを知り考えさせられた実習でした。



カンピ 雁皮。和紙の原料の1つ。栽培が難しく天然のものしかない。

「紙すき教室」の補助で、来館者が老若男女問わず、あっという間に手漉きのハガキができていくのを見て、館内の展示でも紙についての知識を深めることはできますがやはり実際に体験してみるのにはかなわないのだと実感しました。また博物館にとっても来館者と直接話することができる場があるというのは重要なことだと思います。どんなにすばらしい展示をしても見ている側が漫然と眺めているだけでは博物館としての役割を失ってしまうことになるのではないかと思います。

博物館実習を終えて

実習館：さいたま市青少年宇宙科学館 文学部人文学科3年 小島 浩

私 は2週間、さいたま市青少年宇宙科学館で実習をさせて頂きました。

自分の専門が日本考古学であるにも関わらず、なぜ、歴史や考古資料を扱った館ではなく、「宇宙科学館」で実習させて頂いたかと言うと、2つの理由が挙げられます。第1に私は天文の分野に非常に興味があったからです。第2にせっかくの実習なのだから、自分が普段触れない分野に触れてみようと思ったからです。そうすることで、自分の知識の幅を広げてみたいと思いました。

さいたま市青少年宇宙科学館の特徴としてプラネタリウムとクーデ式望遠鏡が挙げられます。プラネタリウムでは宇宙劇場が行われ、実習ではその見学と機械の立ち上げ、立ち下げの見学を行いました。見学の時、ドームに広がるさいたま市の夏の星空を見た時は、実習中ということを忘れてしまう程の感激でした。また、機械の立ち上げ、立ち下げは複雑で慎重に行わなければならない作業でした。素晴らしい星空を来館者に楽しんでもらうためには、地道な準備があってこそなのだ、と実感しました。

また、クーデ式望遠鏡は、館の最上階にあり、コンピュータを使って簡単に天体を探して観測する事ができるというものです。実習では扱いませんでしたが、毎週日曜日に公開天文台が行われていました。

次に実の内容について少しお話ししたいと思います。まず、毎日行った実習である、企画展の解説員についてお話しします。実習期間中、目の錯覚や光の性質を利用した展示である、『ラ・ピレット展』が行われていて、そこで解説員をやり

ました。来館者のほとんどは小学生で、始めは、話しかけるタイミングや話し方、自分の説明がうまく伝わるだろうかなど、様々な不安がありました。しかし、日が経つにつれ、スムーズ

に解説ができるようになりました。時々、小学生の意外な質問に驚かされることもありましたが、いい経験になりました。

次に、企画展体験教室の講師についてお話しします。これは、『ラ・ピレット展』にある様々な色が見えてくるコマと赤と青のセロハンのメガネで見ると動いて見える絵を作る教室の講師をするという実習でした。子供にうまく教えられるか不安でしたが、子供が一生懸命、楽しそうに取り組んでくれていて、とても嬉しかったです。

また、実習では、各種教室のアシスタントとしての参加も行いました。天体観望会、天文宇宙教室、工作教室、顕微鏡教室、サイエンスショーなどがありました。

私は、中でも天文宇宙教室が最も印象に残りました。これは、モデルロケットという火薬を使って打ち上げるロケットを作製し、打ち上げ大会をするという教室でした。2日間行われ、初日が講義とロケット作製で、2日目は近くの公園での打ち上げ大会でした。参加者は全員小学生で、初日の講義の時、その積極性や宇宙、ロケットに関する関心の高さに驚かされました。2日目は、会場の設営から行いました。こういった仕事も学芸員の重要な役割なのだと思



博物館実習生たちと（前列右が小島さん）

じました。大会が始まると、私は、公園の外に出てしまったロケットを回収しに行くという仕事を行いました。中には、近くの小屋の屋根に落ちたり、隣の建物の屋上に落ちるケースもあり、予想以上に大変な仕事でした。しかし、こういった裏で汗をかく仕事も学芸員の役割なのだと思うと同時に、学芸員の幅広さの様なものを実感することができました。

今回の実習は、本当に充実した2週間でした。普段接する機会のなかった小学生と多く接することができたのは貴重な経験となりました。また、人に物事を伝える、教えることの難しさを実感させられました。また、学芸員の先生が様々な企画を考えている姿を見ることができました。私の担当の先生が、秋にプラネタリウムを見ながらのコンサートを企画していて、その選曲に頭を悩ませていたのを覚えています。

今回、学芸員の仕事である、企画を作る・行う・伝える、という部分に触れることができました。ほんの一部分にすぎないかもしれませんが、学芸員が博物館にとって非常に重要な役割であるということに改めて実感しました。様々な面で本当に実りのある実習ができたと思います。

デ ー タ 編

Index

1	平成12年度資格課程履修者数.....	40
2	平成12年度教員免許状取得状況一覧.....	41
3	平成12年度実習先一覧（教育実習）.....	42
4	平成12年度実習先一覧（図書館実習）.....	45
5	平成12年度実習先一覧（博物館館務実習）.....	45
6	主な就職先一覧（教職）.....	46
7	主な就職先一覧（司書・学芸員）.....	48
8	平成12年度資格課程年間行事表.....	49
9	平成12年度資格課程教員紹介.....	50

平成12年度 資格課程履修者数

教職	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
	經 済 学 部 （ 經 済 ）	33	4	64	12	32	8	22	11	151	35	186
	經 済 学 部 （ 国 際 經 済 ）	13		13		7		9		42		42
	法 学 部 （ 法 律 ）	56	11	51	4	37	9	29	9	173	33	206
	經 営 学 部 （ 經 営 ）	11		9		15		6		41		41
	經 営 学 部 （ 情 報 管 理 ）	2		1		1		1		5		5
	商 学 部 （ 商 業 ）	38	9	42	9	42	9	39	9	161	36	197
	商 学 部 （ 会 計 ）	4		3		2		1		10		10
	文 学 部 （ 国 文 ）	43		42		44		55		184		184
	文 学 部 （ 英 米 文 ）	21		32		25		30		108		108
	文 学 部 （ 人 文 ）	33		46		21		18		118		118
	文 学 部 （ 心 理 ）	1		1		1				3		3
	大 学 院	21								21		21
	科 目 等 履 修 生		45								45	45
	小 計	276	69	304	25	227	26	210	29	1017	149	
合 計	345		329		253		239		1166		1166	

司書	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
	経 済 学 部 （ 経 済 ）	2		1	1	1	1			4	2	6
	経 済 学 部 （ 国 際 経 済 ）	1		3						4		4
	法 学 部 （ 法 律 ）	12		3	2	2		4	2	21	4	25
	経 営 学 部 （ 経 営 ）	7		4		3		2		16		16
	経 営 学 部 （ 情 報 管 理 ）			1						1		1
	商 学 部 （ 商 業 ）	2	4	1		7			1	10	5	15
	商 学 部 （ 会 計 ）											
	文 学 部 （ 国 文 ）	16		14		12		19		61		61
	文 学 部 （ 英 米 文 ）			4		1		5		10		10
	文 学 部 （ 人 文 ）	5		8		12		6		31		31
	文 学 部 （ 心 理 ）							1		1		1
	大 学 院	1								1		1
	科 目 等 履 修 生		8								8	8
	小 計	46	12	39	3	38	1	37	3	160	19	
合 計	58		42		39		40		179		179	

司書教諭	年次 学部・学科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
	経済学部（経済）	1						1	2	2	2	4
	経済学部（国際経済）			1						1		1
	法学部（法律）	1	1	3		2		3	2	9	3	12
	経営学部（経営）			1						1		1
	経営学部（情報管理）			1						1		1
	商学部（商業）	2	1	6	1	2	1	3	6	13	9	22
	商学部（会計）											
	文学部（国文）	6		9		9		15		39		39
	文学部（英米文）	1						1		2		2
	文学部（人文）	7		5				2		14		14
	文学部（心理）	1								1		1
	大学院	5								5		5
	科目等履修生		14								14	14
	小計	24	16	26	1	13	1	25	10	88	28	
合計	40		27		14		35		116		116	

学芸員	学 部・学 科	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
	経 済 学 部 (経 済)	2	2	7		7		4		20	2	22
	経 済 学 部 (国 際 経 済)	2		1		4		2		9		9
	法 学 部	3		6		7	1	4	1	20	2	22
	経 営 学 部 (経 営)	4		1				2		7		7
	経 営 学 部 (情 報 管 理)					1				1		1
	商 学 部 (商 業)	3		5	2	7		8		23	2	25
	商 学 部 (会 計)			1		1				2		2
	文 学 部 (国 文)	14		12		12		15		53		53
	文 学 部 (英 米 文)			2		4		3		9		9
	文 学 部 (人 文)	20		37		39		17		113		113
	文 学 部 (心 理)			1				1		2		2
	大 学 院	9								9		9
	科 目 等 履 修 生		3								3	3
小 計	57	5	73	2	82	1	56	1	268	9		
合 計	62		75		83		57		277		277	

平成12年度 教員免許状取得状況一覧

データ編

Passo a Passo

		免許種類	中学一種				高校一種				中学専修				高校専修				合計						
			教科	社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民	商業	国語	書道	英語	小計	社会	国語	英語	小計		地理歴史	公民	商業	国語	英語	小計
生田	一部	経済学科	申請件数	11			11	12	10	0			22												33
		授与件数	10			10	12	8	0				20											30	
		国際経済学科	申請件数	5			5	5	2	0	0		7											12	
		授与件数	4			4	4	2	0	0		6												10	
		経営学科	申請件数							4			4											4	
		授与件数								2			2											2	
		情報管理学科	申請件数							0			0											0	
		授与件数								0			0										0		
		商業学科	申請件数	8			8	9	10	20			39											47	
		授与件数	7			7	6	10	19			35												42	
		会計学科	申請件数							1			1											1	
		授与件数								1			1											1	
		国文学科	申請件数		36			36				46	5	51											87
		授与件数		35			35				43	5	48												83
		英米文学科	申請件数					23	23				23	23											46
		授与件数						18	18				18	18											36
		人文学科	申請件数	7			7	13	6				19												26
		授与件数	5			5	11	4					15												20
心理学科	申請件数	0			0	0		0	0		0												0		
授与件数	0			0	0		0	0	0		0												0		
研究科	経済学	申請件数																						0	
	授与件数																							0	
	経営学	申請件数																						0	
	授与件数																							0	
	商学	申請件数																						0	
	授与件数																							0	
	文学	申請件数																					0		
	授与件数																						0		
	文	申請件数																					0		
	授与件数																						0		
神田	小	法律学科	申請件数	31	36	23	90	39	28	25	46	5	23	166	6	5	1	12	6	1		5	1	13	25
		授与件数	26	35	18	79	33	24	22	43	5	18	145	4	1	1	1	6	5	0	0	2	1	8	238
		申請件数	15			15	15	20						35										50	
		授与件数	14			14	13	18						31										45	
	一部	経済学科	申請件数	3			3	1	5	1				7											10
		授与件数	3			3	1	3	1					5										8	
		法律学科	申請件数	3			3	2	4					6										9	
		授与件数	3			3	2	4						6										9	
	二部	商業学科	申請件数	4			4	2	2	5				9											13
		授与件数	3			3	2	2	5					9										12	
		法学	申請件数																					0	
		授与件数																						0	
	研究科	科目等履修生	申請件数	7			7	9	12	4				25											32
		授与件数	5			5	5	8	4					17										22	
		小計	申請件数	32	0	0	32	29	43	10	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114
		授与件数	28	0	0	28	23	35	10	0	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	96
	合計	小計	申請件数	63	36	23	122	68	71	35	46	5	23	248	6	5	1	12	6	1	0	5	1	13	395
			授与件数	54	35	18	107	56	59	32	43	5	18	213	4	1	1	6	5	0	2	1	8	334	

平成12年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	北海道札幌平岡高等学校	公民	経済	経済
	北海道	札幌静修高等学校	国語	文	国文
	青森県	青森県立三本木高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	青森県	青森県立百石高等学校	地理歴史	商	商業
	青森県	青森市立三内中学校	社会	商	商業
	岩手県	岩手県立釜石南高等学校	国語	文	国文
	岩手県	専修大学北上高等学校	地理歴史	経済	経済
	岩手県	専修大学北上高等学校	商業	商	商業
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	国文
	岩手県	水沢市立東水沢中学校	英語	文	英米文
	宮城県	宮城県岩ヶ崎高等学校	国語	文	国文
	宮城県	仙台市立台原中学校	英語	文	英米文
	秋田県	秋田県立能代北高等学校	国語	文	国文
	山形県	山形県立加茂水産高等学校	地理歴史	商	商業
	山形県	山形市立商業高等学校	商業	商	商業
	福島県	福島市立信夫中学校	国語	文	国文
関東	茨城県	茨城県立下妻第一高等学校	地理歴史	経済	経済
	茨城県	茨城県立古河第三高等学校	公民	経済	経済
	茨城県	茨城高等学校	地理歴史	経済	経済
	茨城県	取手市立取手第一中学校	社会	経済	経済
	茨城県	常陸太田市立太田中学校	国語	文	国文
	茨城県	守谷町立守谷中学校	英語	文	英米文
	栃木県	栃木県立栃木商業高等学校	商業	商	商業
	栃木県	栃木県立鹿沼高等学校	地理歴史	商	商業
	栃木県	栃木県立大田原女子高等学校	英語	文	英米文
	栃木県	栃木県立佐野女子高等学校	地理歴史	文	人文
	栃木県	栃木県立栃木女子高等学校	地理歴史	文	人文
	栃木県	宇都宮短期大学附属高等学校	国語	文	国文
	栃木県	國學院大學栃木高等学校	英語	文	英米文
	栃木県	佐野市立城東中学校	英語	文	英米文
	群馬県	桐生市立商業高等学校	商業	商	商業
	群馬県	群馬県立高崎女子高等学校	公民	商	商業
	群馬県	群馬県立中央高等学校	国語	文	国文
	群馬県	群馬県立高崎東高等学校	地理歴史	文	人文
	群馬県	東京農業大学第二高等学校	国語	文	国文
	群馬県	群馬大学教育学部附属中学校	社会	文学研究	
	埼玉県	埼玉県立春日部東高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立深谷商業高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	埼玉県立本庄高等学校	地理歴史	商	商業
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	埼玉県立熊谷西高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	埼玉県立川口北高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	埼玉県立大宮光陵高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	埼玉県立越谷東高等学校	地理歴史	文	人文
	埼玉県	獨協埼玉高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	春日部共栄高等学校	国語	文	国文
	埼玉県	淑徳与野高等学校	英語	文	英米文
	埼玉県	浦和ルーテル学院高等学校	社会	文	人文
	埼玉県	北本市立宮内中学校	社会	商	商業
	埼玉県	大宮市立片柳中学校	国語	文学研究	
	千葉県	千葉県立佐原高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	千葉県立松戸国際高等学校	公民	商	商業
	千葉県	千葉県立国分高等学校	公民	商	商業
	千葉県	千葉県立柏中央高等学校	公民	商	商業
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	国文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英語	文	英米文

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	千葉県	専修大学松戸高等学校	英語	文	英米文
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	文	人文
	千葉県	八千代松陰高等学校	地理歴史	文	人文
	千葉県	富里町立富里北中学校	社会	経済	経済
	千葉県	千葉市立犢橋中学校	国語	文	国文
	千葉県	山武町立山武南中学校	社会	文	人文
	千葉県	市川市立第一中学校	社会	文	人文
	東京都	東京都立成瀬高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	東京都立成瀬高等学校	社会	商	商業
	東京都	東京都立南多摩高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	東京都立江東商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	東京都立小松川高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立田無高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立江北高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立城東高等学校	国語	文	国文
	東京都	東京都立昭和高等学校	英語	文	英米文
	東京都	京華商業高等学校	商業	経営	経営
	東京都	共栄学園高等学校	商業	商	商業
	東京都	江戸川女子中学・高等学校	英語	文	英米文
	東京都	昭和一高等学校	商業	商	商業
	東京都	松蔭高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	国文
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英米文
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	人文
	東京都	東京実業高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	東京実業高等学校	商業	商	商業
	東京都	日本大学鶴ヶ岡高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	保善高等学校	社会	経済	国際経済
	東京都	共立女子第二中学・高等学校	社会	経済	経済
	東京都	青梅市立吹上中学校	英語	文	英米文
	東京都	大田区立南六郷中学校	国語	文	国文
	東京都	トキワ松学園中学校・高等学校	国語	文	国文
	東京都	トキワ松学園中学校・高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立弥栄西高等学校	公民	経済	国際経済
	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立相模大野高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立横浜日野高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	英語	文	英米文
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	地理歴史	文	人文
	神奈川県	横浜高等学校	商業	経営	経営
	神奈川県	聖和学院高等学校	国語	文	国文
	神奈川県	相模原市立大沢中学校	社会	商	商業
	神奈川県	横浜市立富岡中学校	国語	文	国文
	神奈川県	厚木市立厚木中学校	国語	文	国文
	神奈川県	秦野市立本町中学校	英語	文	英米文
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	商業

平成12年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	商業
	山梨県	山梨県立桂高等学校	国語	文	国文
	山梨県	富沢町立万沢中学校	国語	文	国文
	山梨県	大月市立猿橋中学校	英語	文	英米文
	山梨県	富士吉田市立明見中学校	英語	文	英米文
信越	長野県	長野県長野吉田高等学校	地理歴史	商	商業
	長野県	長野県長野商業高等学校	商業	商	商業
	長野県	長野県松本美須々ヶ丘高等学校	国語	文	国文
	長野県	須坂市立墨坂中学校	英語	文	英米文
	新潟県	新潟明訓高等学校	公民	商	商業
	新潟県	関根学園高等学校	商業	商	商業
	新潟県	敬和学園高等学校	地理歴史	文	人文
	新潟県	新潟市立濁川中学校	社会	経済	国際経済
	新潟県	新潟市立濁川中学校	国語	文	国文
	新潟県	山北町立山北中学校	国語	文	国文
	新潟県	長岡市立南中学校	国語	文	国文
	新潟県	安田町立安田中学校	英語	文	英米文
北陸	富山県	富山県立桜井高等学校	公民	商	商業
	富山県	富山県立富山東高等学校	地理歴史	商	商業
	富山県	富山国際大学附属高等学校	国語	文	国文
	石川県	石川県立金沢向陽高等学校	商業	経営	経営
	石川県	根上町立根上中学校	英語	文	英米文
	福井県	福井県立武生商業高等学校	商業	商	商業
東海	岐阜県	岐阜県立大垣商業高等学校	商業	商	会計
	岐阜県	岐阜県立中津高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立静岡東高等学校	地理歴史	経済	国際経済
	静岡県	静岡県立掛川西高等学校	公民	商	商業
	静岡県	富士市立古原商業高等学校	商業	商	商業
	静岡県	静岡県立静岡西高等学校	国語	文	国文
	静岡県	静岡県立沼津西高等学校	英語	文	英米文
	静岡県	静岡県立浜松湖東高等学校	地理歴史	文	人文
	静岡県	加藤学園暁秀高等学校	英語	文	英米文
	静岡県	島田市立初倉中学校	社会	経済	経済
	静岡県	沼津市立大岡中学校	国語	文	国文
	愛知県	名古屋市長若宮商業高等学校	商業	経営	経営
	愛知県	愛知県立春日井商業高等学校	商業	商	商業
近畿	兵庫県	兵庫県立北条高等学校	地理歴史	文	人文
	兵庫県	姫路市立林田中学校	社会	経済	経済
	和歌山県	和歌山県立和歌山東高等学校	公民	経済	経済
中国	広島県	広島県立呉昭和高等学校	地理歴史	商	商業
九州	福岡県	美萩野女子高等学校	地理歴史	商	商業
	長崎県	長崎県立長崎北陽台高等学校	地理歴史	経済	経済
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	文	人文
	大分県	天瀬町立東深中学校	社会	経済	経済
	大分県	野津原町立野津原中学校	国語	文	国文
	宮崎県	宮崎県立宮崎北高等学校	公民	経済	国際経済
	宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校	地理歴史	商	商業

平成12年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	北海道	北海道釧路湖陵高等学校	地理歴史	法	法律
	山形県	山形県立米沢工業高等学校	公民	法	法律
	福島県	福島県立福島高等学校	公民	法	法律
	群馬県	東京農業大学第二高等学校	公民	法	法律
関東	埼玉県	川口市立青木中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県立国分高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県立柏南高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	千葉敬愛高等学校	公民	法	法律
	千葉県	四街道市立四街道西中学校	社会	法	法律
	東京都	東京都立東大和南高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	町田市立つくし野中学校	社会	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	神奈川県立西湘高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	武相高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	茅ヶ崎市立鶴嶺中学校	社会	法	法律
	山梨県	甲府市立西中学校	社会	法	法律
信越	長野県	長野県松本県ヶ丘高等学校	公民	法	法律
	長野県	須坂市立相森中学校	社会	法	法律
	長野県	伊那市立春富中学校	社会	法	法律
東海	静岡県	静岡県立浜松南高等学校	地理歴史	法	法律
四国	高知県	土佐塾高等学校	地理歴史	法	法律
九州	福岡県	福岡大学附属大濠高等学校	地理歴史	法	法律
	熊本県	熊本県立宇土高等学校	地理歴史	法	法律
	宮崎県	宮崎県立小林高等学校	公民	法	法律
	宮崎県	宮崎県立日向高等学校	地理歴史	法	法律

平成12年度 教育実習先一覧（2部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	岩手県	岩手県立久慈商業高等学校	商業	商	商業
	宮城県	仙台市立中田中学校	社会	法	法律
関東	茨城県	東洋大学附属牛久高等学校	地理歴史	商	商業
	茨城県	北茨城市立華川中学校	社会	商	商業
	埼玉県	埼玉県立深谷商業高等学校	地理歴史	経済	経済
	埼玉県	川口市立川口高等学校	商業	商	商業
	埼玉県	朝霞市立朝霞第一中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉黎明高等学校	地理歴史	経済	経済
	千葉県	四街道市立四街道北中学校	社会	履修生	
	東京都	東京都立大山高等学校	地理歴史	経済	経済
	東京都	東京都立永山高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京都立葛飾商業高等学校	商業	商	商業

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	日本大学第一高等学校	地理歴史	履修生	
	東京都	墨田区文花中学校	社会	商	商業
	東京都	藤村女子中・高等学校	社会	履修生	
	神奈川県	神奈川県立藤沢北高等学校	公民	経済	経済
	神奈川県	横浜市立名瀬中学校	社会	商	商業
	山梨県	山梨県立増穂商業高等学校	商業	履修生	
信越	新潟県	新潟県立新発田高等学校	公民	法	法律
東海	静岡県	静岡県立吉原高等学校	公民	法	法律
	静岡県	静岡県立沼津西高等学校	地理歴史	法	法律
九州	福岡県	福岡県立大牟田商業高等学校	商業	履修生	
沖縄	沖縄県	沖縄県立伊良部高等学校	公民	経済	経済
	沖縄県	沖縄尚学高等学校	公民	経済	経済

平成12年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	埼玉県	越谷市立図書館	文	英米文
	千葉県	専修大学松戸高等学校図書館	法	法律
	千葉県	取手市立図書館	履修生	
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	国文
	神奈川県	川崎市立幸図書館	文	国文
	神奈川県	相模原市立相模大野図書館	文	人文
	神奈川県	座間市立図書館	履修生	
	神奈川県	専修大学図書館	履修生	
	神奈川県	横浜市中央図書館	文	国文
	北陸	富山県立図書館	文	国文

平成12年度 博物館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
東北	青森県	青森県立郷土館	文	人文
	岩手県	日本現代詩歌文学館	文	国文
	宮城県	仙台市歴史民俗資料館	文	国文
関東	茨城県	霞ヶ浦町郷土資料館	文	人文
	茨城県	幕末と明治の博物館	経済	国際経済
	茨城県	水戸市立博物館	文	人文
	栃木県	宇都宮美術館	経済	国際経済
	栃木県	佐野市郷土博物館	文	人文
	栃木県	栃木県立博物館	履修生	
	群馬県	群馬県立歴史博物館	文	人文
	群馬県	高崎市少年科学館	経済	国際経済
	群馬県	東毛歴史資料館	商	商業
	埼玉県	アリタキアーボレータム	文	人文
	埼玉県	入間市博物館 A L I T	経済	経済
	埼玉県	浦和くらしの博物館民家園	文	人文
	埼玉県	さいたま川の博物館	文	英米文
	埼玉県	埼玉県こども動物自然公園	文	国文
	埼玉県	本庄市立歴史民俗資料館	文	人文
	千葉県	我孫子市鳥の博物館	文	国文
	千葉県	成東町歴史民俗資料館	文	人文
	千葉県	千葉市花の美術館	文	英米文
	千葉県	船橋市郷土資料館	文	人文
	東京都	紙の博物館	文	人文
	東京都	切手の博物館	経済	経済
	東京都	江東区芭蕉記念館	文	国文
	東京都	国立科学博物館	経済	経済
	東京都	しながわ水族館	文	国文
	東京都	世田谷区立郷土資料館	文	人文
	東京都	たばこと塩の博物館	文	英米文
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	商	商業
	東京都	通信総合博物館	経営	経営
	東京都	東京都恩賜上野動物園	商	商業
	東京都	東京都薬用植物園	経営	情報管理
	東京都	日本刀装具美術館	法	法律
	東京都	沼田絵本美術館	法	法律
	東京都	沼田絵本美術館	文	英米文
	東京都	八王子市郷土資料館	文	人文

	所在地	実習館名	実習学生	
			学部	学科
関東	東京都	武蔵野音楽大学楽器博物館	文	人文
	東京都	明治大学考古学博物館	文	人文
	東京都	明治大学商品陳列館	経済	経済
	東京都	目黒区美術館	文	人文
	東京都	横山大観記念館	法	法律
	東京都	労働省産業安全研究所附属・産業安全技術館	経営	経営
	神奈川県	厚木市子ども科学館	文	人文
	神奈川県	伊勢原市子ども科学館	商	商業
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	国文
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文	人文
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	国文
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	人文
	神奈川県	川崎市立日本民家園	経済	経済
	神奈川県	川崎市立日本民家園	商	商業
	神奈川県	川崎市立日本民家園	商	商業
	神奈川県	観音崎自然人文博物館	文	人文
	神奈川県	シルク博物館	文	人文
	神奈川県	中村正義の美術館	商	商業
	神奈川県	箱根彫刻の森美術館	文	英米文
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	国文
	神奈川県	平木浮世絵美術館	法	法律
	神奈川県	藤沢市江の島植物園	文	人文
	神奈川県	湯河原ゆかりの美術館	経済	経済
	神奈川県	横浜開港資料館	文	人文
	神奈川県	横浜子ども植物園	商	商業
	神奈川県	よみうりランド植物園	文	国文
	山梨県	甲府市遊亀公園附属動物園	経済	経済
信越	新潟県	新潟市立美術館	文学研究科	史学専攻
	長野県	市立大町山岳博物館	文	人文
	長野県	佐久市立近代美術館	文	人文
東海	静岡県	三島市郷土資料館	文	人文
	三重県	四日市市立博物館	法	法律
関西	大阪府	大阪府立弥生文化博物館	法	法律
	兵庫県	明石市立天文科学館	文	人文
中国 沖縄	島根県	鉄の歴史博物館	文	人文
	沖縄県	読谷村立歴史民俗資料館	文	人文

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成10年度	平 5 経済・経済	新潟県新発田中央高等学校	専 任	公民・地歴
	平 8 法・法律	宮崎県宮崎市立檉中学校	専 任	社 会
	平10 法・法律	千葉県専修大学松戸高等学校	非 常 勤	公 民
	平10 法・法律	長野県諏訪清陵高等学校	非 常 勤	公民・地歴
	平 9 経営・経営	熊本県熊本市立商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商・商業	高等学校（東京都）		商 業
	平 7 商・商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平10 商・商業	青森県立弘前中央高等学校	非 常 勤	商 業
	平10 商・商業	東京都東亜学園高等学校校	専 任	商 業
	平10 商・商業	新潟県立八海高等学校	専 任	商 業
	平10 文・国文	福島県松韻学園福島高等学校	常 勤	国 語
	平10 文・国文	新潟県立糸魚川白嶺高等学校	専 任	国 語
	平10 文・国文	岩手県専修大学北上高等学校	専 任	国 語
	平10 文・英米文	東京都板橋区立成増小学校	期 限 付	そ の 他
	平10 文・英米文	福島県泉崎村立泉崎中学校	専 任	英 語
	平10 文・英米文	栃木県立小山城南高等学校	専 任	英 語
	平 6 文・人文	島根県立松江高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平10 文・人文	東京都東京共育学園高等学校	専 任	公 民
	平10 文・人文	高等学校（宮城県）		地 理 歴 史
	平10 院文・修士	東京都立教女学院中学校・高等学校	専 任	地 理 歴 史
平成11年度	平10 院法・修士	東京都文教大学附属高等学校	専 任	公 民
	平10 院文・博士	神奈川県光明学園相模原高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 経済・経済	北海道えりも町立えりも高等学校	常 勤	公 民
	平 8 法・法律	東京都専修大学附属高等学校	専 任	公 民
	平 9 法・法律	神奈川県横浜市立深谷中学校	非 常 勤	社 会
	法・法律	千葉県浦安市立浦安中学校	非 常 勤	社 会
	平11 経営・経営	福島県立須賀川高等学校	常 勤	商 業
	平11 経営・経営	東京都立大島高等学校	専 任	商 業
	平11 商・商業	東京都立赤羽商業高等学校	専 任	商 業
	平 6 商・商業	東京都立台東商業高等学校	専 任	商 業
	平 7 商・商業	東京都立池袋商業高等学校	専 任	商 業
	平 9 商・商業	北海道歌志内高等学校	専 任	公 民
	平11 商・会計	長野県松商学園高等学校	常 勤	商 業
	平 8 文・国文	宮城県石越町立石越中学校	専 任	国 語
	平11 文・国文	大分県昭和女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平11 文・国文	北海道紋別市立潮見中学校	常 勤	国 語
	平 7 文・英米文	栃木県宇都宮市立鬼怒中学校	専 任	英 語
	平 9 文・英米文	青森県立八戸東高等学校	専 任	英 語
	平10 文・英米文	神奈川県小田原市立白鷗中学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	岩手県立千厩東高等学校	常 勤	英 語
	平11 文・英米文	千葉県柏市立酒井根中学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	東京都正則学園高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	山梨県立ふじざくら養護学校	非 常 勤	英 語
	平11 文・英米文	栃木県今市市立落合中学校	専 任	英 語
	文・人文	新潟県立南城高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 8 院文・修士	東京学芸大学附属大泉高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平 9 院文・修士	栃木県立壬生高等学校	専 任	英 語
	平11 院文・修士	東京都保善高等学校	非 常 勤	英 語
	平11 院文・修士	東京都文教大学附属中学校・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平11 院文・修士	熊本県専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年度・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成12年度	経済・経済	鹿児島県吾平町立吾平中学校	専 任	社 会
	法・法律	山梨県立甲府昭和高等学校	専 任	公 民
	平12 経営・経営	香川県立丸亀城西高等学校	常 勤	商 業
	平12 経営・経営	長野県赤穂高等学校	専 任	商 業
	平12 経営・経営	新潟県立栃尾高等学校	非 常 勤	商 業
	平 6 商・商業	北海道豊浦高等学校	専 任	商 業
	平11 商・商業	東京都立五日市高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 商・商業	倉敷市立児島第一高等学校	専 任	商 業
	平12 商・商業	静岡県立小笠高等学校	非 常 勤	商 業
	平12 文・国文	福島県立光南高等学校	期 限 付	国 語
	平12 文・国文	佐藤栄学園	常 勤	国 語
	平12 文・国文	日本体育大学荏原高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 文・国文	横浜国立大学横浜高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 文・国文	駒場学園高等学校	非 常 勤	国 語
	平 8 文・英米文	東京都立国分寺高等学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	松韻学園福島高等学校	常 勤	英 語
	平11 文・英米文	佼成学園中・高等学校	専 任	英 語
	平11 文・英米文	福島県立喜多方商業高等学校	専 任	英 語
	平12 文・英米文	八王子高等学校	専 任	英 語
	平11 文・人文	花咲徳栄高等学校	専 任	社 会
	平12 院文・修士	専修大学松戸高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平12 院文・修士	東京農業大学第三高等学校	非 常 勤	国 語
	平12 院文・修士	二松学舎大学附属高等学校	非 常 勤	公 民
	平12 院文・修士	武蔵工業大学附属中学・高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

卒業年度・学部・学科	勤務先
平 8 文・人文	東京大学法学部図書館
平 8 文・国文	杉並区立中央図書館（東京都）
平 8 法・法律	瀬高町立図書館準備室（福岡県）
昭和46 文・人文	東京福祉商経専門学校図書室
平 8 文・国文	桂村立図書館（茨城県）
昭和57 文・人文	市川市東国分中学校
平 9 文・人文	見附市立図書館（新潟県）
平 9 文・人文	女子栄養大学図書館
平 6 文・国文	下妻市立図書館準備室（茨城県）
平 9 文・国文	八街市立図書館（千葉県）
平 9 法・法律	日外アソシエーツ（株）
平10 文・国文	鷺湖書房
平10 文・国文	長岡市立中央図書館（新潟県）
平 9 文・人文	東京医科大学図書館
平11 商・商業	有隣堂

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県一迫町役場	山武郡埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター	国立西洋美術館
下妻市ふるさと博物館	調布市郷土博物館
玉造町資料館	東京国際美術館
栃木県埋蔵文化財センター	東京都埋蔵文化財センター
栃木県立博物館	明治大学考古学博物館
群馬県埋蔵文化財センター	福井県立博物館
富岡市立美術館博物館福沢一郎記念美術館	高山市歴史民俗資料館
入間市郷土博物館	MOA美術館
浦和市立郷土博物館	鳥羽水族館
行田市郷土博物館	高松市歴史資料館
埼玉県埋蔵文化財センター	浦和市くらしの博物館民家園
通信総合博物館	矢島町立郷土資料館
野田市郷土博物館	

平成12年度 資格課程年間行事表

課 程		教 職 課 程		司書・司書教諭課程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対象 年次	行 事	対象 年次	行 事	対象 年次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年） 履修届および履修修正（全学年）					
	中 旬						
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス	3	司書課程学生相談会 司書教諭修了証書申請ガイダンス	4 4	博物館実習事前ガイダンス	3・4
	中 旬	教育実習第一登録ガイダンス	4				
6 月	上 旬	実習希望校との内諾交渉	3			博物館見学実習	3・4
	中 旬	教育実習開始 （5月下旬～9月中旬）	4				
	下 旬	教育免許状一括申請ガイダンス	4				
7 月	下 旬	補 講 お よ び 前 期 試 験 （ 全 学 年 ） 夏 期 休 暇 （ 7 月 下 旬 ～ 9 月 中 旬 ）					
8 月		夏 期 休 暇		図書館実習	4	博物館実習（館務実習）	3・4
9 月	中 旬	教育実習内諾書の提出 教員免許状授与願ガイダンス	3 4	司書製本講習	3・4		
10 月	中 旬	教職公開講座	1～4			博物館実習登録ガイダンス	2・3
11 月	上 旬			司書教諭修了証書申請ガイダンス	4	実習希望博物館との内諾交渉	2・3
	下 旬	教育学会	1～4				
12 月	中 旬	補 講 （ 全 学 年 ）				学芸員資格取得証明書申請手続き	4
1 月	上 旬 下 旬	繰り上げ試験・学年末試験（全学年）				博物館実習承諾書の提出	2・3
2 月	下 旬					追 試 験 （ 全 学 年 ）	
3 月	上 旬 中 旬	教員免許状の交付	4			学芸員資格取得証明書の交付	4

平成12年度 資格課程教員紹介

《司書・司書教諭》

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	梶山喜代子	教育心理学
経済学部	助 教 授	矢吹 芳洋	公民科教育法
法 学 部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法 学 部	教 授	渡部 光	教育人類学
法 学 部	助 教 授	家永 登	法律学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育法
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育法
商 学 部	講 師	小峰 直史	特別活動論
文 学 部	教 授	青木美智男	日本史
文 学 部	教 授	伊部 哲	英語科教育法
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	高橋 貢	国語科教育法
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道家教育法
文 学 部	教 授	松尾 容孝	地理学
文 学 部	教 授	矢野 建一	日本史
文 学 部	助 教 授	近江 吉明	外国史
文 学 部	助 教 授	砂原 由和	教育方法論
経済学部	兼任講師	大熊 光穂	心理学
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育法
経済学部	兼任講師	和井田清司	地理歴史科教育法
法 学 部	兼任講師	岩間 秀幸	道德教育の研究
法 学 部	兼任講師	川崎 惣一	倫理学
法 学 部	兼任講師	坂本 旬	教育方法論
法 学 部	兼任講師	関根 照彦	法律学
経営学部	兼任講師	田口 康明	比較教育学
商 学 部	兼任講師	雨田 英一	社会科教育法
商 学 部	兼任講師	井出 功孝	職業指導
商 学 部	兼任講師	毛利 豊史	倫理学
商 学 部	兼任講師	谷 秀雄	倫理学
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	地理学
文 学 部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育法
文 学 部	兼任講師	齋藤 純	社会科教育法
文 学 部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	豊田 一男	英語科教育法
文 学 部	兼任講師	西田 暢子	外国史
文 学 部	兼任講師	樋口 州男	日本史
文 学 部	兼任講師	町田 洋	地理学
文 学 部	兼任講師	渡辺 千歳	教育心理学

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	講 師	荻原 幸子	図書館特論
商 学 部	助 教 授	高萩栄一郎	コンピュータ概論
文 学 部	教 授	後藤 暢	図書館特論
経済学部	兼任講師	中島 宏	マスコミュニケーション
経済学部	兼任講師	藤原 法子	社会学
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	資料組織概説
法 学 部	兼任講師	田中 功	情報検索
法 学 部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	伊藤 峻	図書館経営論
経営学部	兼任講師	猪平 進	コンピュータ実習
経営学部	兼任講師	竹内 紀吉	図書館サービス論
経営学部	兼任講師	稲垣 信子	学習指導と学校図書館
商 学 部	兼任講師	谷岡日出男	コンピュータ実習
文 学 部	兼任講師	小黒 浩司	資料持論
文 学 部	兼任講師	小林 和夫	マスコミュニケーション
文 学 部	兼任講師	塚原 博	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

教職課程協議会の重鎮として、学生相談室の責任者として、女子バスケット部の部長として、永くその職責を果たされてきた経済学部教授・梶山喜代子先生が、2002（平成14）年3月をもってご退職になります。先生が専任スタッフとして着任されたのは1954（昭和29）年初夏のことですから、在職年数はなんと48年、本学においておよそ半世紀にわたり教育と研究に従事されたことになります。

本編集委員会は、ご退職に先立ち、梶山先生に思い出の記「教職課程とともに」を執筆していただきました。先生は、教職課程の半世紀の歩みを内側から見つめてきた、いわば「生き証人」と言ってもよいでしょう。それ故に、この思い出の記には、教職課程草創期に着任された諸先生方の教員養成に賭ける並々ならぬ意欲、二部教職課程が旧師範学校出身現職教員のための再教育機関として発足したこと、文学部新設を契機にスタッフが一新し教職課程が充実していく様子、一時期教職を志望する多くの学生が小学校教員となって教育界に送り出されたこと、経済的に恵まれない教職志望学生を対象に、専修大学教育学会が奨学金を提供していたこと等々、いまでは忘れられてしまった教職課程にまつわる様々な事跡が記されています。これらを本教育課程の良き伝統として受け継ぎ、さらに発展させていただきたいという先生の熱い思いが伝わってくるようです。

梶山喜代子先生！永いあいだご苦労さまでした。そしてお世話になりました。スタッフ一同これからも益々ご活躍下さいますようお願い申し上げます。

荻原幸子先生には、サンフランシスコ公共図書館の推進する「地域電子図書館」づくりの様相についてまとめていただきました。現地調査を踏まえた力作です。

非常勤講師としてご出講いただいている水上和則先生には「総合科目・焼き物の歴史」、同じく田中功先生には「情報検索」の授業実践について語っていただきました。両先生のご寄稿に感謝申し上げます。また校務多忙にかかわらず、原稿依頼に快く応じて下さったOB・OGの先生方、教育実習生の皆さんにも厚く御礼を申し上げます。

最後になりましたが、本号の編集作業に尽力して下さいました教務課の皆さんに、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

2001年11月1日

資格課程年報編集委員会

編集委員長 蔭 山 雅 博
編集委員 矢 吹 芳 洋
内 田 欽 三
荻 原 幸 子
桐 生 ま い 子

教職・教育学研究室－たまごの会－

新年度の活動について

教職・教育学研究室の目的

本研究室は「素敵な教師」に「なり、そして成長する」ことを目的として立ち上げた研究組織である。①教師としての指導力向上、②教員採用試験の突破、そして③豊かな教育実践を創造するネットワーク形成、以上3点をねらいとしている。

活動：①指導力を伸ばすための教育方法演習と②採用試験突破のための問題演習を中心に活動している。昨年度は以下の活動をおこなった。なお、共通問題集として時事通信社・内外教育研究会編『教職教養パスライン』時事通信社を準備すること。

総合的学習のカリキュラムづくり 模擬授業 構成的グループエンカウターの実習 高等学校との連携 教職教養問題演習 小論文演習 模擬学級活動・ホームルーム練習 面接練習

新年度活動：2001年9月22日(土曜日)13時～19時

2001年10月20日(土曜日)13時～19時 以後、原則として第2土曜日の13時～19時。
春期には合宿研修もある。

活動場所：生田校舎

応募資格：教職1本であること。月1回の定例会に全日程参加できること。以上2点。

研究室入室までの手順：入室希望者は資格課程窓口(教務課、二部事務課窓口)か、直接小峰の研究室(生田校舎2号館中4階2315研究室。出講日は木・金曜日)に申し込んでください。電子メール(BXD03243@nifty.ne.jp)での問い合わせも可能です。
後日、小峰が面接を行ないます。

学生代表	科目等履修生	相沢 宏満(2001年3月経済学部経済学科卒業)
スーパーバイザー	商学部助教授	小峰 直史